



## 490E163=\*

JA 取扱説明書(ユーザー用) ..... 3



## 目次

JA

1	はじめに.....	5
2	製品概要.....	5
2.1	機能.....	5
2.2	製品概要.....	6
3	使用目的.....	7
3.1	使用目的.....	7
3.2	適応（以下の適応症は海外で認可されたものです。）.....	7
3.3	禁忌.....	7
3.3.1	絶対的禁忌.....	7
3.3.2	相対的禁忌.....	7
4	安全性.....	7
4.1	警告に関する記号の説明.....	7
4.2	安全に関する注意事項.....	7
4.3	副作用.....	8
4.4	電磁干渉.....	9
4.5	詳細.....	9
4.6	ネームプレートと警告ラベル表示.....	9
4.6.1	製品のマーク.....	9
4.6.2	ネームプレート.....	10
4.6.3	警告ラベル表示.....	11
5	納品.....	11
5.1	納品時のパッケージ内容.....	11
5.2	保管方法.....	11
5.2.1	日常での保管.....	11
5.2.2	長期の保管.....	11
6	製品使用前の準備.....	12
6.1	安全に関する注意事項.....	12
6.2	最初の操作.....	12
6.3	設定.....	12
6.3.1	コントロールデバイスの調整.....	13
7	使用方法.....	13
7.1	使用できる状態.....	13
7.2	アームレスト.....	13
7.2.1	アームレストの取り外し/取り付け.....	13
7.2.2	アームレストの跳ね上げ/振り下げ.....	14
7.2.3	アームレストの調整.....	14
7.3	フットレスト.....	14
7.3.1	フットプレートを跳ね上げる/振り下げる.....	14
7.4	バックレスト.....	15
7.4.1	バックレストの折り畳み.....	15
7.4.2	バックレスト角度の調整.....	15
7.5	乗り込みと移動.....	16
7.6	コントロールユニット.....	16
7.6.1	コントロールパネル.....	16
7.6.2	ボタンとディスプレイの機能.....	17
7.7	走行機能.....	18
7.7.1	安全に関する注意事項.....	18
7.7.2	走行に関して.....	19
7.7.3	スイッチのオン・オフ.....	20
7.7.4	速度レベルの選択.....	21
7.7.5	運転.....	21
7.7.6	範囲.....	22
7.7.7	転倒防止具.....	22
7.7.8	ドライブアウェイロック.....	22

7.7.9	走行特性の調整.....	23
7.8	ブレーキの有効化/無効化.....	23
7.9	充電式バッテリー/充電プロセス.....	24
7.9.1	安全に関する注意事項.....	24
7.9.2	一般情報.....	24
7.9.3	充電式バッテリーの充電に関して.....	25
7.9.4	充電器.....	25
7.9.5	バッテリーの充電.....	25
7.10	シート.....	27
7.10.1	安全に関する注意事項.....	27
7.10.2	シートクッション.....	27
7.11	位置決めベルト（ラップベルト）.....	27
7.11.1	調整.....	27
7.11.2	使用方法.....	28
7.12	追加オプション.....	29
7.12.1	ライト.....	29
7.12.1.1	道路交通用ライト.....	29
7.12.1.2	ライト（道路交通用ではありません）.....	30
7.12.2	コントロールパネルホルダー.....	31
7.12.3	足置き用ベルト.....	31
7.12.4	収納バッグ.....	31
7.12.5	追加オプション一覧.....	32
7.13	解体および輸送.....	32
7.13.1	安全に関する注意事項.....	32
7.13.2	輸送に向けて小さくする.....	33
7.13.3	輸送準備.....	33
7.14	モビリティに制限のある方が車で移動するために使用します.....	34
7.14.3	使用制限.....	36
7.15	お手入れ方法.....	37
7.15.1	安全に関する注意事項.....	37
7.15.2	お手入れ方法.....	37
7.15.3	消毒.....	37
8	メンテナンスと修理.....	37
8.1	メンテナンス.....	37
8.1.1	メンテナンスの頻度.....	37
8.2	修理.....	38
8.2.1	故障したライトの交換.....	38
8.2.2	充電式バッテリーの交換.....	39
8.3	トラブルシューティング.....	39
8.3.1	メッセージのタイプ.....	39
8.3.2	警告とエラーメッセージへの対処.....	39
8.3.3	車いすコントロールユニットのエラー一覧.....	39
8.4	故障時の行動.....	40
9	廃棄.....	41
9.1	安全に関する注意事項.....	41
9.2	廃棄に関する注意事項.....	41
10	法的事項について.....	41
10.1	保証責任.....	41
10.2	保証.....	41
10.3	個人情報の取り扱いについて.....	41
10.4	耐用年数.....	41
11	テクニカル データ.....	41
12	追加情報.....	44
12.1	電車で輸送させることができる車椅子の閾値.....	44
12.2	ノイズに関する情報.....	44

## 1 はじめに

### 備考

最終更新日: 2020-11-13

- ▶ 本製品の使用前に本書をよくお読みになり、安全注意事項をご確認ください。
- ▶ 製品の安全な使用方法に関しては、有資格者から説明を受けてください。
- ▶ 製品に関するご質問がある場合、また問題が発生した場合は有資格者にお問い合わせください。
- ▶ 製品に関連して生じた重篤な事象、特に健康状態の悪化などは、すべて製造元（裏表紙の連絡先を参照）そしてお住まいの国の規制当局に報告してください。
- ▶ 本書は控えとして保管してください。

### 備考

- ▶ 製品の安全性や回収に関する新しい情報ならびに適合宣言書については、ccc@ottobock.comまたは、製造業者のサービス窓口（裏表紙内側または裏表紙の連絡先を参照）までお問い合わせください。
- ▶ 本書のPDFファイルをお求めの場合は、ccc@ottobock.com、または、製造業者のサービス窓口（裏表紙内側または裏表紙の連絡先を参照）までお問い合わせください。PDFファイルは拡大表示も可能です。

毎日室内で、屋外でさまざまな用途に使用できる医療機器をお届けしました。

いかなる負傷も回避するために、ご使用前に製品の取り扱い、機能、使用目的について熟知するようにしてください。本取扱説明書は必要となる関連情報を提供するものです。

特に以下の点にご注意ください:

- ・ 使用者および/または補助者は、本製品の使用に関して必ず有資格担当者から訓練を受けてください。特に使用者および/または補助者は、取扱説明書に記載されている安全性に関する注意事項をよくお読みになり、その他のリスクを理解するようにしてください。
- ・ 本製品は使用者のニーズを満たすことができるように調整されています。これ以外の変更は有資格担当者のみが行ってください。長期間にわたり最適にご利用いただけるように、年に1回本製品の設定を点検することを推奨しています。特に身長や体重など身体的な変化が予想される使用者の場合は、少なくとも6ヵ月に1回調整を行うことが推奨されています。
- ・ 有資格担当者の住所および電話番号を書き留め、特に本製品を使用して外出する場合はその情報が常に手元にあることを確認してください。不具合が発生した場合、有資格担当者に至急ご連絡ください。迅速にサポートを受けられるように関連する全ての情報を伝えてください。
- ・ お手元の製品が画像のバージョンとは異なる場合があります。特に、本取扱説明書に記載のあるオプションのなかには、ご自身の車椅子には取り付けられていないものもあります。
- ・ 製造元は、取扱説明書に記載されたモデルに技術的な変更を行う権利を有します。

## 2 製品概要

### 2.1 機能

本車いすの使用目的は乗員一人の輸送のみです。

本車いすは、屋内外の両方で硬い地面の上で使用することができます (EN 12184基準のカテゴリ-B)。

このシステムは2つの12V充電式バッテリーで駆動されます。方向安定性を確保し、回転半径を小さく抑え、障害物を簡単に乗り越えられるよう、本製品には後輪駆動システムが採用されています。

電動式車いすはnVR2コントロールデバイスで制御されます（16 ページ参照）。これはコントロールパネルとコントローラから構成されます。コントロールパネルでは駆動の指令を入力し、現在の状態を表示します。コントローラは入力されたデータに基づいて駆動モータを制御します。

電動式車いすの特長：

- ・ コンパクト設計と簡単操作。
- ・ オープンフレーム構造
- ・ 走行安定性（不整地での走行を含む）
- ・ シートの奥行および下肢長さを簡単に調整
- ・ 整備のし易さを追求し全てのパーツに簡単にアクセス。

## 2.2 製品概要



- |   |                       |    |                    |
|---|-----------------------|----|--------------------|
| 1 | バックレスト                | 8  | フットレスト（フットプレート付き）  |
| 2 | アームレスト（跳ね上げ式）         | 9  | キャスター              |
| 3 | コントロールパネル（ジョイスティック搭載） | 10 | 駆動輪                |
| 4 | シートクッション              | 11 | 転倒防止具（転倒防止キャスター付き） |
| 5 | 位置決めベルト（ラップベルト）       | 12 | ブレーキ解除レバー付きモーター    |
| 6 | 片持ちフレーム               | 13 | バックレスト角度調整機構       |
| 7 | バッテリーカバー              | 14 | プッシュバー             |

### 3 使用目的

使用目的に沿い本取扱説明書に記載されている情報に従って使用した場合のみ、本製品の安全な使用を確保することができます。事故のない操作は最終的にユーザーの責任となります。

#### 3.1 使用目的

本車いすは、歩行能力が一時的または恒久的に制限されている人、歩行が困難な人、または立ち上がることが困難な人のための屋内外での移動を使用目的としています。操作は使用者によって行われます。

本製品は、接触する部分の皮膚状態が良好であり、使用目的に沿った身体条件(体の大きさや体重)を満たした使用者に適した製品です。

本車いすには、製品に提供されているオプションのみを使用することができます。

モジュラーシステムに含まれていない他メーカーの医療機器および付属品と併用した場合、製造元は一切の責任を負いません。

#### 3.2 適応 (以下の適応症は海外で認可されたものです。)

- ・ 軽度から重度、または完全に可動性が制限されている方

#### 3.3 禁忌

##### 3.3.1 絶対的禁忌

- ・ なし

##### 3.3.2 相対的禁忌

- ・ 身体的または精神的要件を満たしていない場合

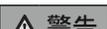
## 4 安全性

### 4.1 警告に関する記号の説明

 <b>警告</b>	重大な事故または損傷の危険性に関する注意です。
 <b>注意</b>	事故または損傷の危険性に関する注意です。
 <b>注記</b>	損傷につながる危険性に関する注記です。

### 4.2 安全に関する注意事項

#### 製品の誤使用による危険

<p> <b>警告</b></p> <p><b>不適切な製品の使用</b></p> <p>使用者の誤操作に起因する転倒、落下、衝突</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本製品はその使用が認められている1名の使用者のみが使用してください。</li> <li>▶ 使用者または補助者は、有資格担当者から製品の使用に関する訓練を必ず受けてください。</li> <li>▶ 取扱説明書の内容を全てお読みください。</li> <li>▶ 疲労が見られる場合や、アルコール、薬品、薬物の影響下での使用はできません。</li> <li>▶ 注意力や判断力が一時的または恒久的に制限されている方は、本製品を使用できません。身体的な制限（弱視、視力の低下など）のなかには、一時的または恒久的に製品を使用できないと判断されるものがあります。</li> <li>▶ 公道での運転中は、道路交通規則を遵守してください。</li> </ul>
<p> <b>警告</b></p> <p><b>認められていない使用方法</b></p> <p>誤った取り扱いによる挟まり、圧潰、引き込み、転倒、落下の危険</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本製品は必ず本来の使用目的に従って使用してください。</li> <li>▶ 一度に乗車して移動できる人数は1人のみです。</li> </ul>

**⚠ 警告**

**過重負荷**

負荷過重による転倒、それに伴う重篤な傷害、製品の損傷

- ▶ 最大荷重を超過していないことを確認してください（ネームプレートおよび「テクニカルデータ」のセクションを参照）。

**⚠ 警告**

**耐用年数を越えた使用**

製造元の指定に従わなかったことによる重篤な負傷の危険

- ▶ 指定された耐用年数を超えて製品を使用すると、残存リスクが高くなります。
- ▶ 指定された耐用年数をご確認ください。

**⚠ 注意**

**皮膚の損傷**

過負荷による皮膚の損傷または圧点

- ▶ 本製品使用前および使用中に肌が良好な状態であることを確認してください。
- ▶ 製品の使用を時々休止することにより、丁寧なスキンケアと圧力の緩和を行ってください。
- ▶ 皮膚に損傷またはその他の問題が見られる場合は本製品の使用を中止してください。有資格担当者にご相談ください。

**⚠ 注意**

**診断検査および治療での製品の使用**

製品と使用される医療機器との相互作用による検査結果への影響または治療の有効性の低下

- ▶ 検査および治療が所定の条件下でのみ行われていることを確認してください。

**⚠ 注意**

**極端な温度により発生する危険**

パーツと接触したり、パーツの故障により、体温が低下したり火傷が生じたりするおそれがあります。

- ▶ 直射日光、サウナ、極端な寒さなど、製品をいかなる極端な温度にも曝さないでください。
- ▶ ヒーターの近くに製品を放置しないでください。

**注記**

**不適切な環境での使用**

過度の高温または低温による製品の破損

- ▶ 本製品は  $-15^{\circ}\text{C} \sim +40^{\circ}\text{C}$  ( $5^{\circ}\text{F} \sim +104^{\circ}\text{F}$ ) の温度範囲内でのみ使用することができます。

### 4.3 副作用

本製品使用中に以下の副作用が発生することがあります：

- ・ 首、筋肉、関節の痛み
- ・ 循環障害、褥瘡（じゅくそう）

問題が発生した場合は医師か療法士にご相談ください。

## 4.4 電磁干渉

### △ 注意

#### 他の電気製品の電磁場

電動式車いすの制御信号への干渉により発生する、他者や物品との衝突

- ▶ 本電動式車いすは適用されるすべてのEMC指令と規格に準拠しており、それに従った試験を通過しています。
- ▶ しかし、特定の状況下（ラジオ/テレビ局、アマチュア無線送信機（HAM）、トランシーバー、放射線を発する医療機器、携帯電話など）では、他の電子機器による本製品のコントロールデバイスへの干渉が発生することがあります。これはコントロールデバイスの機能に影響を与え、駆動特性に意図しない変化をもたらすおそれがあります。
- ▶ このような場合は、製品を電磁干渉がない場所に移動させるか、干渉している電気製品の電源を切ってください。それが不可能な場合は、本製品のコントロールデバイスの電源を切り、有資格担当者に連絡してください。
- ▶ 携帯機器（コードレス電話、ラップトップ、タブレット、スマートウォッチ、ラジオ、電気シェーバー、電動歯ブラシなど）が電磁干渉を引き起こす可能性は低いと考えられます。

### 備考

- ▶ 本製品の電磁場が周辺にある機器（デパートの警報装置や自動ドアなど）に干渉する可能性を排除することはできません。
- ▶ この場合は、本製品を電磁干渉が起こらない場所に移動させるか、電動式車いすのコントロールデバイスをオフにしてください。

## 4.5 詳細

### 備考

スペアパーツやアクセサリに関するお問い合わせ、ご注文に必要となるシリアル番号はネームプレートに記載されています。ネームプレートに関する説明は、「ネームプレート」（10 ページ参照）のセクションを参照してください。

## 4.6 ネームプレートと警告ラベル表示

### 4.6.1 製品のマーク

警告ラベルおよびネームプレートは電動式車いす上の以下の取り付け点に付されています：



電動式車いすの警告ラベルおよびネームプレート

### 4.6.2 ネームプレート

ネームプレートはシート下のフレーム側面にあります。

ラベル表示	説明
	A 製造元での製品名
	B CEマーキング
	C 最大荷重(「テクニカルデータ」の章を参照してください)
	D 最大昇降力(「テクニカルデータ」の章を参照してください)
	E 最大速度(「テクニカルデータ」の章を参照してください)
	F 許容される軸荷重、前
	G 許容される軸荷重、後
	H 許容される全重量
	I 製造元情報/住所
	J シリアルナンバー <sup>1)</sup>
	K 製造日 <sup>2)</sup>
	L 医療機器のマーク
	M 警告 ご使用になる前に、取扱説明書をお読みください。安全性に関する重要な注意事項をよくお読みください(警告や注意など)。
	N 電気および電子装置を識別するマーク 電動式車いすのパーツとバッテリーは家庭用ゴミとして廃棄しないでください。
	O 関連製品を示す製造元の製品番号
	P シリアルナンバー(PI) <sup>3)</sup> 、 <sup>1)</sup>
	Q 国際商品識別コード(DI) <sup>4)</sup>

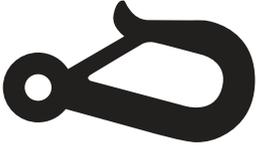
1) MMM = モデル/類似モデル、S = スピードコード、YY = 製造年、WW = 製造週、PP = 製造場所、XXX = 製品番号(連番)

2) YYYY = 製造年、MM = 製造月、DD = 製造日

3) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、PI = 製造識別子

4) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、DI = 機器識別子

### 4.6.3 警告ラベル表示

ラベル表示	説明
	A 電動走行モード：モーターブレーキロック状態
	B 手動走行モード：モーターブレーキロック解除状態
	モビリティが低下した方用の車両に本製品を固定するための固定点/アイボルト

## 5 納品

### 5.1 納品時のパッケージ内容

基本的に電動式車いすはすぐにご利用いただける状態で納品されます。

納品時のパッケージ内容

- ・ 主要パーツ装備済み車いす
- ・ 充電器
- ・ 取扱説明書(装着者用)
- ・ アクセサリーの取扱説明書（装備内容に応じて異なります）

### 5.2 保管方法

#### 5.2.1 日常での保管

電動式車いすは常に外界の影響から保護する必要があります。

コントロールユニットの電源はオフにしてください。

#### 5.2.2 長期の保管

##### 注記

##### バッテリー放電

スタンバイ電流に起因する充電式バッテリーの破損

- ▶ 3日以上使用しない場合は、バッテリーケーブルをコントローラーから外してください（13 ページ参照）。

電動式車いす3日以上使用しない場合は、以下の点に注意してください：

##### 保管条件

- ・ 電動式車いすは外界からの影響を受けない、十分換気され乾燥した場所に保管してください。保管条件に関する具体的な情報：41 ページ参照。
- ・ 組立台または木のブロックの上に載せるなどして、車輪を霜から保護してください。
- ・ 熱源から十分な距離を確保してください。製品を長時間駐車したままの状態で置く、またはタイヤが過熱状態になるような場所（ラジエーターの近くやガラス越しに強い日差しが当たっている状態など）で保管することにより、タイヤが変形し元の形状に戻らない場合があります。
- ・ 同じ面を設置させて長期間駐車するとその面が平らになります。これを防ぐためには、毎週ホイールを回転させてください。
- ・ 長期間保管する場合には、電動式車いすの車輪が地面に接触しないような状態で保管してください。

##### タイヤに関する注意事項

- ・ 電動式車いすを数日間動かさない場合、地面にあたっている部分が変色することがあります。そのような理由から長期間駐車する場合には適切な駐車場所を準備してください。
- ・ できる限り屋外での駐車は避けてください。太陽光/紫外線に直接あたると、早期にタイヤが劣化します。その結果、トレッド面が固くなり、トレッドの角の部分が欠けることがあります。
- ・ 安全な走行を確保するためにタイヤのトレッドが 1 mm (0.04") 以下になった場合は、必ずタイヤを交換してください。

- ・ タイヤは摩耗が進んでいない場合でも、2年毎に交換してください。
- ・ PUタイヤが装着された電動式車いすを長時間駐車すると、タイヤが変形することがあります（平ら面の発生）。この変形は走行しているうちにもとに戻ります。

## 6 製品使用前の準備

### 6.1 安全に関する注意事項

#### 操作開始時の一般的な注意事項

##### ⚠ 警告

##### 包装材の不適切な取り扱いによる危険性

監視を怠ることでお子様が窒息するおそれがあります。

- ▶ 包装材は、必ず小児の手の届かない場所に保管してください。

##### ⚠ 警告

##### 調整作業の際のパーツの予期せぬ動き

メンテナンスおよび修理に関する指示に従わない場合に発生する圧潰、挟まり、衝突

- ▶ 手や頭など、体の部分が決して危険な箇所がないことを確認してください。
- ▶ 作業はアシスタントのサポートを受けながら行ってください。

##### ⚠ 警告

##### 自己判断で設定を変更することで発生する危険性

製品に許可されていない変更による重度の負傷の危険

- ▶ 有資格担当者が行った設定は変更しないでください。取扱説明書の「使用方法」のセクションに記載された設定のみ、ユーザーが調整することができます。
- ▶ 設定に問題がある場合は、調整を行った有資格担当者にご連絡ください。

##### ⚠ 注意

##### ネジ接合が正しく締められていない

組み立てエラーによる使用者の挟まり、挫滅、転倒、落下の危険

- ▶ 製造元から認められている方法での調整/再調整作業が行われた後に、取り付け用ネジ/ナットを正しく締め直してください。締め付けトルク（指定されている場合）を確認してください。

### 6.2 最初の操作

有資格担当者は完全に組み立てられ、使用できる状態の電動式車いすを納品します。

以下の作業が追加的に必要になることがあります：

- ・ バッテリーケーブルの接続（13 ページ参照）
- ・ 充電式バッテリーの充電（25 ページ参照）
- ・ バックレストの跳ね上げ（15 ページ参照）
- ・ アームレストの取り付け（13 ページ参照）

### 6.3 設定

使用者または補助者が行ってもよい微調整は以下の調整のみです。調整作業は使用者が電動式車いすに真っ直ぐ座った状態で行ってください。

- ・ バックレスト角度の調整（15 ページ参照）
- ・ アームレスト高さの調整（14 ページ参照）
- ・ 位置決めベルト（ラップベルト）の調整（27 ページ参照）

これ以外の調整変更は有資格担当者のみが行う必要があります。

調整作業を実行する前にすべての部品をクリーニングしてください。

### 6.3.1 コントロールデバイスの調整

#### ⚠ 警告

#### コントロールデバイスの誤った設定

パラメータを誤って設定すると転落、転倒、衝突の原因となります。

- ▶ コントロールデバイスのパラメータ設定を行うことができるのは有資格担当者のみです。本製品の製造元およびコントロールデバイスの製造元は、パラメータが誤って設定されていた場合、また使用者の能力に応じて適切な調整が行われていなかった場合、損害に関して一切の責任を負いません。

必要な場合、有資格担当者は使用者の要件に応じて車いすのコントロールデバイスで事前設定されているパラメーターを変更することができます。

## 7 使用方法

### 7.1 使用できる状態

#### 備考

長期間本製品を使用しない場合、バッテリーケーブルをコントローラのプラグ接続から外してください。

注記: 充電式バッテリーとコントローラ間のプラグ接続は、原則として納品時にすでに接続されており、電動式車いすは使用可能な状態になっています。

そうでない場合、これを接続してください。プラグ接続はバッテリーカバーの後方、下にあります。



#### バッテリーケーブルの接続

- 1) バッテリーケーブルのプラグを手に取ります。プラグは2つのモーターの間、バッテリーカバーの下にあります（画像参照 3、左）。
- 2) プラグをコントローラに差し込みます（画像参照 3、右）。

#### バッテリーケーブルを外す

- 1) バッテリーケーブルのプラグをコントローラから外します。プラグを外すにはスナップフィットを押します（画像参照 3、1）。
- 2) バッテリーケーブルは垂らしておきます（画像参照 3、左）。

### 7.2 アームレスト

#### ⚠ 注意

#### 露出したピンチポイント

誤った取り扱いによる体位の挟まり、圧潰の危険

- ▶ アームレストを上下に折り畳むときは、指が危険な場所ないことを確認してください。

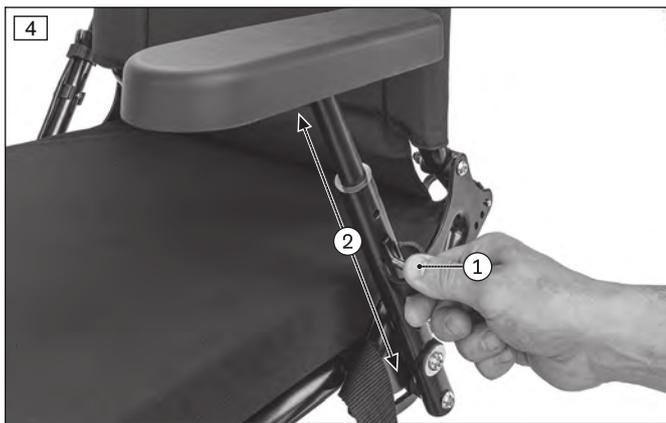
#### 備考

それに伴うコントロールパネルの位置調整に関しては有資格担当者にお問い合わせください。

アームレストは使用者の前腕をサポートします。

#### 7.2.1 アームレストの取り外し/取り付け

アームレストは必要に応じて取り外すことができます。



#### アームレストの取り外し

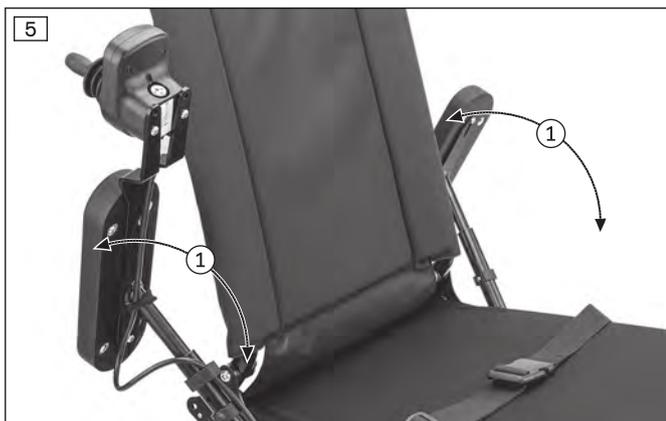
- 1) 手でクランプピン（クランプ）を引いて外します（画像参照 4、1）。
- 2) アームレストを上へ引いて外し脇に置いておきます（画像参照 4、2）。
- 3) コントロールパネルが付いたアームレストの場合のみ：
  - コントロールデバイスをオフにします（16 ページ参照）。
  - 電動式車いすを移動させる場合にはアームレストをシートの上に置きます。

#### アームレストの取り付け

- 1) アームレストをガイドに差し込みご希望の高さまで挿入します（画像参照 4、2）。  
備考： アームパッドの下に保持プレートがあります。アームレストが取り付けられる際にこのプレートのカーブは常に外側を向いた状態です。
- 2) クランプピン（クランプ）を再び取り付けます（画像参照 4、1）。

### 7.2.2 アームレストの跳ね上げ/振り下げ

横から車いすに乗りやすくするために、必要に応じてアームレストを跳ね上げることができます。



#### アームレストを前後に倒す

- 1) アームレストを手で掴みます。
- 2) アームレストを止まる点まで後ろ方向に跳ね上げます（画像参照 5、1）。
- 3) 車いすに乗った後走行開始前にアームレストを前に倒します。

### 7.2.3 アームレストの調整

使用者は自分で前腕レストの高さを調整することができます。それに伴う前腕レストの深さ、幅の設定は有資格担当者が行います。

## 7.3 フットレスト

使用者は中央に配置されたフットレストに足を載せることができます。フットプレートの高さは、使用者の下肢の長さに合わせて有資格担当者により既に調整されています。フットプレートの角度は足首が快適な位置を取れるように有資格担当者により調整されています。

### 7.3.1 フットプレートを跳ね上げる/振り下げる

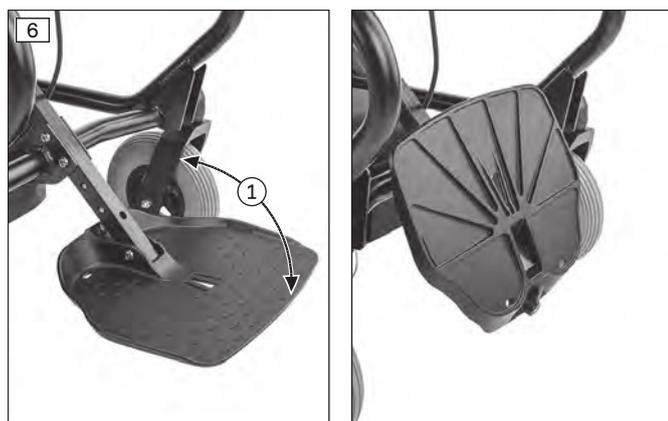
#### ⚠ 注意

##### 露出したピンチポイント

誤った取り扱いによる挟まり/挫滅

▶ フットプレートを上下に折り畳むときは、指が危険な場所ないことを確認してください。

使用者は足をフットプレートに載せることができます。フットプレートは車いすに乗りやすくするために跳ね上げることができます。



#### フットプレートを跳ね上げる/振り下げる

- 1) フットプレートの前端を掴みます。
- 2) フットプレートを跳ね上げる、または振り下げます (画像参照 6、1)。

## 7.4 バックレスト

### ⚠ 注意

露出したピンチポイント

誤った取り扱いによる挟まり/挫滅

▶ バックレストを上下に折り畳むときは、指が危険な場所ないことを確認してください。

バックレストは背中にかかる圧力を適切に分配し上体をサポートするものです。

### 7.4.1 バックレストの折り畳み

本車いすではバックレストが折り畳まれた状態で納品されていることもあります。使用前にはこれを跳ね上げ固定する必要があります。



#### バックレストの跳ね上げ

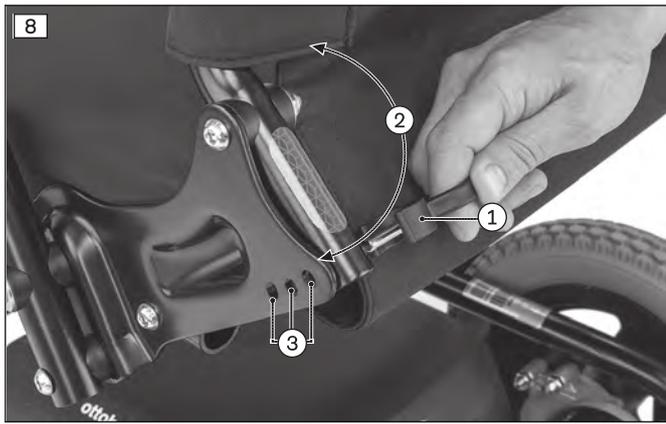
- 1) アームレストを後ろに向かって跳ね上げます (14 ページ参照)。
- 2) 手でバックレスト両側にあるクランプピン (クランプ) を引いて外します (画像参照 7、1)。
- 3) バックレストを持ち上げご希望の位置まで移動します (画像参照 7、2)。
- 4) バックレストを引き、ロックがしっかりとハマっていることを確認します。
- 5) アームレストを前へ振り下げます (14 ページ参照)。

#### バックレストの折り畳み

- 1) アームレストを後ろに向かって跳ね上げます (14 ページ参照)。
- 2) 手でバックレスト両側にあるクランプピン (クランプ) を引いて外します (画像参照 7、1)。
- 3) バックレストを座面に向かって倒します。
- 4) アームレストを前へ振り下げます (14 ページ参照)。

### 7.4.2 バックレスト角度の調整

バックレスト角度は使用者それぞれのニーズに合わせて調整することができます。この調整を行う際、使用者は必ずシートに座っている必要があります。



- 1) 手でバックレストパイプ両側の下にあるクランプピン（クランプ）を引いて外します（画像参照 8、1）。
- 2) バックレストをご希望の角度になるよう調整します（画像参照 8、2）。
- 3) クランプピン（クランプ）を左右両側で適切な穴に差し込みます（画像参照 8、3）。
- 4) バックレストを引き、ロックがしっかりとハマっていることを確認します。

## 7.5 乗り込みと移動

### ⚠ 注意

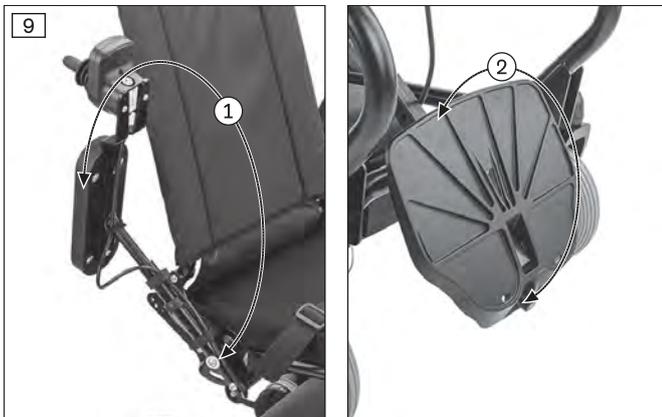
#### 乗り込み時の誤った取り扱い

誤った取り扱いによる落下、転倒

- ▶ 意図しない走行動作が発生することがないように、乗降前にはコントロールデバイスの電源を切ってください。
- ▶ アームレストは使用者の全体重を支えるよう設計されているものではありませんので、乗降の際に支えとして使用しないでください。
- ▶ 乗降時には決してフットプレートを踏まないでください。
- ▶ 走行中は必ずラップベルトを着用してください。

使用者は自分に一番合った方法で車いすに乗降してください。

推奨: アームレストやフットプレートを跳ね上げておくと、横からの乗り降りが容易になります。



#### 横からの乗車

- 1) コントロールデバイスをオフにします（17 ページ参照）。
- 2) アームレストを跳ね上げます（画像参照 9、1）。
- 3) 必要な場合: フットプレートを止まる点まで跳ね上げます（画像参照 9、2）。
- 4) 電動式車いすに横から乗降します。移動用ボードを使うと乗降が容易になります。
- 5) フットプレートとアームレストを止まる点まで振り下げます。

## 7.6 コントロールユニット

### ⚠ 注意

#### 制御できない走行動作

電磁場からの干渉による転落、転倒、付近にいる人または物品への衝突

- ▶ 「電磁干渉」のセクションに記載されている情報を確認してください（9 ページ参照）。
- ▶ 使用しない時にはコントロールデバイスはオフにしてください。

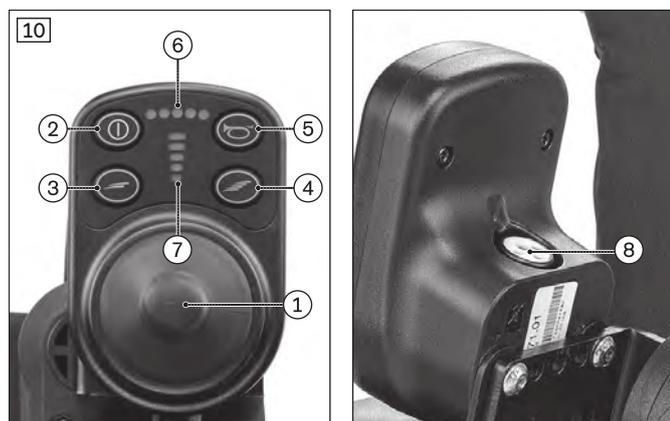
この電動式車いすにはnVR2コントロールデバイスが装備されています。

### 7.6.1 コントロールパネル

電動式車いすはコントロールパネルを使用して操作します。

コントロールパネルはボタン、ディスプレイ、ジョイスティックから構成されています。下には充電コンセントがあります。有資格担当者はこれにパラメータ設定のためのプログラミング機器を接続することもできます。

コントロールパネルは、電動式車いすのオン/オフの切り替え、駆動指令の入力、特定の機能やパーツの現時点での状態を表示に使用されます。



- 1 ジョイスティック
- 2 [オン/オフ] ボタン
- 3 [速度を下げる] ボタン
- 4 [速度を上げる] ボタン
- 5 [ホーン] ボタン
- 6 [充電レベル] LED表示
- 7 [選択された速度レベル] LED表示
- 8 充電コンセント用の穴

## 7.6.2 ボタンとディスプレイの機能

### ジョイスティック

ジョイスティックで速度および進行方向をコントロールします (21 ページ参照)。

### [オン/オフ] ボタン

このボタンで電動式車いすをオン/オフすることができます (20 ページ参照)。追加的な操作手順と組み合わせて、ドライブアウェイロックを有効化/無効化することもできます。(22 ページ参照)。

### [速度を下げる] および [速度を上げる] ボタン

このボタンを軽く押すと速度レベルを上げ/下げすることができます (21 ページ参照)。最高速度レベルに達すると、音信号が変わります。

### [ホーン] ボタン

このボタンを押し続けるとホーンが鳴り続けます。

### [選択された速度レベル] LED表示

LED表示は現在選択されている速度レベル (1-5)を表示します。

### [充電レベル] LED表示

[充電レベル] LED表示は5つのセグメントに分かれ、現在の充電レベルを示します：

- ・ 少し走行されるまでこのインジケータの表示は正確なものではありません。
- ・ バッテリーシンボルの5つのセグメントが点灯していれば充電状態は100%です。
- ・ 充電ステータスが下がるにつれLEDセグメントは一つずつ消灯していきます。
- ・ 最後のLEDセグメントが点滅したら、充電式バッテリーを至急充電してください。
- ・ 5つ全てのLEDセグメントが一度フラッシュし、間をおいてそれが繰り返される場合、充電式バッテリーが低電圧状態であることを示しています。充電式バッテリーを至急充電してください。
- ・ 5つ全てのLEDセグメントが10回点滅した場合、充電式バッテリーが過電圧状態であることを示しています。低速走行でのみ走行を続行してください。
- ・ LEDが順次点滅している状態は充電中を意味します。充電中走行機能はブロックされています。

### コントロールパネルのバッテリーインジケータ

ディスプレイ画面	備考
	充電式バッテリーは充電されています
	可能な場合充電式バッテリーを充電してください
	バッテリー充電中

ディスプレイ画面	備考
	至急充電式バッテリーを充電してください
 点滅*	充電式バッテリー低電圧 (39 ページ参照)
 10回点滅	バッテリー過電圧 (39 ページ参照) 注記: 5つ全てのLEDがそれぞれ10回短く点滅します。一旦それが止まり、その後もう一度10回短く点滅します。

\* 一番左のLEDが点滅します。

### その他のLEDディスプレイ機能

以下のセクションにその他のLEDディスプレイシンボルの機能の説明を読むことができます。

- ・ セクション「速度レベルの選択」 (21 ページ参照)
- ・ セクション「ドライブアウェイロック」 (22 ページ参照)
- ・ セクション「トラブルシューティング」 (39 ページ参照)

## 7.7 走行機能

### 7.7.1 安全に関する注意事項

#### 走行中の危険

#### △ 注意

##### 走行経験の不足

本製品の誤った取り扱いによる衝突

- ▶ 初めのうちは平らな見通しの良い場所で本製品の使用を練習してください。

#### △ 注意

##### 座っている人物が固定されていない

拘束が十分に行われていないことに起因する電動式車いすからの落下の危険

- ▶ 公道での走行中は必ず装備されているベルトシステムを使用してください。
- ▶ 部品の購入や後付けに関する情報は、この製品を納品した有資格担当者が使用者/補助者の方にお渡ししています。

#### △ 注意

##### 制御できない動作、予期せぬ音やにおい

故障による転落、転倒、付近にいる人または物品への衝突

- ▶ 人身傷害につながる可能性のある不具合、欠陥、またはその他の危険が考えられる場合は、製品の使用を直ちに中止してください。これには、制御できない動作、予期せぬ音、以前は気づかなかった音、または納品時の製品では全く感じられなかった臭いが含まれます。
- ▶ 有資格担当者にお問い合わせください。

#### △ 注意

##### 暗い場所での走行

ライトの点灯がない場合、路上の交通参加者と衝突の危険

- ▶ 明るい色の衣服、または反射板の付いた衣服を着用してください。
- ▶ ご利用の製品にライトを装着してください。
- ▶ 本製品の反射板が確実に見える状態であることを確認してください。

## 公共交通機関、エレベーター、昇降プラットフォーム使用時の危険

**△ 注意**

## エレベーター、昇降プラットフォームの使用

誤った配置による転倒や付近にいる人または物品への衝突

- ▶ 昇降台やエレベーター使用中は、電動式車いすのコントロールユニットをオフにしてください。
- ▶ ブレーキがかかっていることを確認してください。

**△ 注意**

## 公共交通手段を使用する場合の安全な配置

人為的ミスによる圧潰、挟まり、衝撃、人や物品との衝突、製品の破損

- ▶ 電動式車いすの輸送が認められている公共交通手段のみを使用してください。
- ▶ 公共交通手段を利用する際には、交通会社の現行の交通ガイドラインや自国の法的要件を必ず遵守してください。
- ▶ 公共交通手段での移動中は正しい位置に確実に固定されていることを確認してください。そのため車いす専用エリア、車いすコーナー、固定システムを使用してください。車両が動き出す前に電動式車いすをオフにしてください。
- ▶ 人が座った状態の車いすを公共交通手段で輸送することは、安全上すべての乗員にとって大きなリスクとなります。そのような理由から、当社では移動中は車内のシートをご利用になることを推奨しています。
- ▶ 公共交通手段に認可されている安全拘束装置がない場合、車いすに座ったままで移動することはできません。

## 障害物を超えるための持ち上げ

**△ 警告**

## 補助者による不適切な持ち上げにより発生する危険

緩んだパーツや不適切なパーツを持って車椅子を持ち上げると、利用者が転倒したり落下したりするおそれがあります。

- ▶ 本製品はアシスタントの補助なしで持ち上げないでください。アシスタントがいる場合、それぞれ各側に1人を配置しシート下のフレームチューブを両手で掴むようにしてください。
- ▶ ネジ止めされている、または後付けされているパーツ（バックレスト、フットレスト、前腕レストなど）を掴んで持ち上げないでください。

## 機能性を失っているタイヤ

**△ 注意**

## 破損のあるタイヤ

けん引力低下、制動力低下、または操作力低下による事故/落下の危険

- ▶ タイヤに十分な溝の深さがあるか確認してください。タイヤのトレッドが 1mm 以下になった場合は、タイヤは交換してください。

## 追加情報

**備考**

- ▶ 電動式車いすの使用中には、摩擦などにより静電気の放電（高電圧/低電流、使用者からの放電）が発生することがあります。しかし、これは健康へ悪影響を及ぼすものではありません。
- ▶ ESD（静電気放電）は電動式車いすにパンク防止タイヤが装備されている場合にも発生することがあります。

## 7.7.2 走行に関して

## 一般情報：

- ・ 使用前には充電不足によるモーターの停止を回避するために、毎回、充電式バッテリーの充電レベルを確認しなければなりません。
- ・ 初心者は常に低い速度レベルで走行してください。
- ・ カーブは常にゆっくりと走行してください。
- ・ 凹凸のある地面では、車いすの走行の動きをコントロールできなくなることがあります。そのような理由から、速度は地面の状況に応じて常に調整してください。
- ・ リバース運転は、地面が平らな場所で短距離走行にのみご利用ください。

### 障害物（階段、縁石、線路）

- ・ 障害物には必ず真正面からアプローチしてください（障害物に前輪1つだけで斜めに走行しないでください）。
- ・ 障害物から最大10cmの距離でスタートすることは可能です。
- ・ 障害物を乗り越える際には常にスピードを落としてください（速度レベル1または2）。
- ・ 障害物の高さに関する情報をご参照ください（「テクニカルデータ」のセクションを参照）。そこに規定されている高低差を超える障害物を越えることはできません。
- ・ 高い面から「飛び」降りる状況は避けてください。
- ・ 障害物を越える際に車いすから身を乗り出さないでください。
- ・ 鉄道システムおよび線路を横断する際には指定されたエリアのみを走行してください。
- ・ 踏切を渡るときには縁に近づきすぎないでください。そうしない場合、車輪が誤って踏切エリアの外に出てしまうことがあります。

### 地形：

- ・ 危険な場所では速度を下げなければなりません（速度レベル1を選択するなど）。
- ・ 危険なエリアの例：
  - － 水路/坂道/崖（岸壁、堤防など）に沿った細い道
  - － 狭い室内/エリア
  - － 急な下り坂（山道、傾斜路）
  - － 表面が平らに舗装されていないエリア（工事現場、交差点、踏切など）
  - － 雪道または凍結のあるエリア

### 傾斜と勾配：

- ・ 走行可能な傾斜と勾配に関する情報をご参照ください（「テクニカルデータ」のセクションを参照）。規定されている角度を超える傾斜や下り坂での走行は認められていません。車いすが傾き安全にブレーキを作動できなくなることがあります。駆動車輪のトラクションが低下します。
- ・ コントロールデバイスとモータに過負荷が発生しないよう注意しなければなりません。最大登坂角度は、地面の状況、外気温、バッテリー電圧、使用者の走行スタイルだけでなく、総重量（車いすの重量＋使用者体重＋荷物）にも左右されます。最大登坂角度が規定値よりも著しく低くなるケースも考えられます。
- ・ 下り坂を安全に走行するために、勾配に応じて速度を下げてください（速度レベル1を選択するなど）。
- ・ 下り坂でのリバース走行は絶対に行わないでください。傾斜のある路面での操作は短時間のみ認められています（例えば、モビリティが低下した方用の車両から降りるときなど）。
- ・ 本製品は塩水に浸した状態で使用しないでください。

### コントロールデバイスの使用：

- ・ コントロールシステムは常に確実に固定された状態で、ジョイスティックは正しい位置に設置してください。
- ・ 充電式バッテリーが完全に充電されているにもかかわらず電動式車いすが最高速度で走行しない場合は、選択されている速度レベルを確認してください。速度レベルを上げてこの問題を解決できない場合は有資格担当者にお問い合わせください。

### その他の詳細な取扱説明

- ・ リュックサックなど、追加的な荷重がかかると安定性に悪影響を及ぼすことがあります。そのため、車いすに追加的な荷重を吊り下げるとは禁止されています。
- ・ 走行準備が整ったカテゴリ-Bに属する電動式車いすに推奨されている全幅は 700 mm (27.5 inch)です。この仕様の場合、避難経路などを問題なく通過することができます。本製品のサイズは推奨値を超えていません（詳細情報は「テクニカルデータ」のセクションを参照: 41 ページ参照）。
- ・ このシリーズの製品は電車での車いす移動に関する最低技術要件を完全に満たしています（44 ページ参照）。

### 7.7.3 スイッチのオン・オフ

#### 警告

#### ブレーキ機能なし

点検を行わないことに起因する転落、転倒、付近にいる人または物品への衝突

- ▶ 走行を開始する前に毎回、ブレーキ解除レバーが走行位置にあることを確認してください。（23 ページ参照）。
- ▶ コントロールユニットの表示で、ブレーキが使用可能であり、機能していることを確認してください。（39 ページ参照）。

**警告****安全機能の故障**

点検を行わないことに起因する転落、転倒、付近にいる人または物品への衝突

- ▶ ご使用になる前に、本製品とその安全機能が安全かつ正常な状態であることを確認してください。
- ▶ 本製品は自動ブレーキなどの安全機能がすべて機能している状態でのみご利用いただけます。

**警告****予期せぬ緊急停止**

落下：使用者が突然の緊急停止で車いすから落下する危険

- ▶ コントロール機器でバスシステムの通信障害や電源不良が発生した場合、システムは予期せぬ動きを回避するために緊急停止を起動します。
- ▶ 道路上で緊急停止が起動する場合、使用者が危険にさらされることがあります。コントロールデバイスは定期的に点検を受けてください(37 ページ参照)。
- ▶ 緊急停止後は、電動式車いすのコントロールデバイスの電源を再び入れる必要があることにご注意ください。
- ▶ コントロールデバイスの電源を入れ直しても走行機能を使用することができない場合は、ブレーキを解除し、プッシュモードを作動させることができます(23 ページ参照)。
- ▶ 再始動しても走行機能が使用できない場合は、速やかに有資格担当者にご連絡ください。

**備考**

危険な状況に遭遇した場合、本製品はオン/オフボタンを使用しいつでも電源を切ることができます。ボタンを押すと電動式車いすはすぐに停止します。ソフトウェアがコントロールデバイスへの電力供給が不十分などの不具合を認識した場合、緊急停止が起動されるか、または速度が低下します。

- ・ [オン/オフ] ボタン(16 ページ参照)を押すと電動式車いすのコントロールユニットがオンまたはオフになります。コントロールユニットが長い時間使用されないと電動式車いすは自動でオフになります。
- ・ 電動式車いす走行中に[オン/オフ]ボタンがオフに入れられると、ブレーキが自動的にかかり停車します。
- ・ コントロールユニットのスイッチを入れると、前回選択されていた速度レベルがそのまま取り入れられます。

**7.7.4 速度レベルの選択**

- ・ 電動式車いすのコントロールデバイスには5種類の速度レベルがあります。
- ・ [速度を下げる] ボタンを押すと、速度が低下します。
- ・ [速度を上げる] ボタンを押すと、速度が上がります。
- ・ 最高速度レベルまたは最低速度レベルに達すると、音声信号のピッチが変化します。
- ・ [選択された速度レベル] のLED表示は、選択されている速度レベルを表示します。
- ・ 有資格担当者は、速度レベルを最大5つまでの個別の走行プロファイルに置き換え、各走行プロファイルのパラメータ(加速度や速度値など)を調整することができます。

ディスプレイ画面	備考
	例: 選択された速度レベル = 3

**7.7.5 運転****警告****不適切な路面での走行**

操作ミスによる落下や転倒の危険

- ▶ 滑りやすい路面(凍結など)や、凸凹のある路面(砂利や瓦礫)では、電動式車いすを使用しないでください。

**警告**

**傾斜での走行、障害物の乗り越え**

使用者の誤操作による転倒、落下

- ▶ 障害物を乗り越えたり、上り坂や下り坂での走行は許可された最大値の範囲内でのみ行ってください。詳細は「テクニカルデータ」のセクションを参照ください。(41 ページ参照)。
- ▶ 勾配のある路面を登っているとき、または下っているときには障害物を乗り越えないでください。
- ▶ 傾斜や坂道での乗降は避けてください。
- ▶ 階段の上を走行しないでください。

**警告**

**制動距離が伸びるケース**

操作ミスによる落下、転倒、衝突の危険

- ▶ 下り坂では平地に比べ制動距離が著しく伸びるという点にご留意ください。
- ▶ 下り坂走行中は速度を落としてください（速度レベル 1など）。

**備考**

本製品のコントロールユニットは、高温化した時や長時間の上り坂を走った後に安全モードに切り替わり、これにより本製品の性能を制限します。

使用者はいつでも危険な状況から本製品を移動させることができます。しばらくすると本製品の機能性はもとに戻ります。

電動式車いすはジョイスティックの操作でコントロールします：

- ・ ジョイスティックが中心から離れるほど、電動式車いすの1方向への速度が上がります。
  - ・ ジョイスティックを完全に倒した状態での最高速度は、選択されたスピードレベルに応じて異なります。
  - ・ ジョイスティックを離すと自動的にブレーキ機能が働き、電動式車いすは停車します。
- 横転することがないように、電動式車いすが停止すると、自動的に機械式ブレーキが作動します。

**7.7.6 範囲**

本製品の使用許容範囲に関する情報は「テクニカルデータ」のセクションに記載されています（41 ページ参照）。

本製品の使用許容範囲に影響を及ぼすのは以下の要因です：

- ・ バッテリー残量
- ・ 充電式バッテリーの寿命
- ・ 外気温
- ・ 走行条件（例：地形、路面、障害物を乗り越える頻度など）
- ・ 充電方法
- ・ 電源オプションのタイプと数
- ・ 選択された装備を含む車いすの総重量
- ・ 電源オプションの使用
- ・ 使用者の体重
- ・ タイヤ（空気圧、トレッド深さ）

**7.7.7 転倒防止具**

下り坂走行中でのブレーキ時には、転倒防止キャストが電動式車いすを安定させます。

転倒防止具は地面との間のクリアランスが少なくとも50mmになる様に取り付けられていますペダル接地角。

**7.7.8 ドライブアウェイロック**

**備考**

この機能は有効化されています。

これを無効化したい場合は、本製品の調整を行った有資格担当者(義肢装具製作施設) または製造元のサービス部門（本書の裏表紙の内側または裏表紙の連絡先を参照）までお問い合わせください。

電動式車いすのコントロールユニットには電子式ドライブアウェイロックがあります。この機能はコントロールパネルを使って有効化/無効化することができます。

**ドライブアウェイロックの有効化**

- 1) コントロールユニットの電源が入った状態で、[オン/オフ]スイッチを長押しします。
- 2) ビープ音が鳴ったら（約1秒）、[オン/オフ]ボタンを離します。

- 3) ジョイスティックをビープ音がする点まで前に倒します。
  - 4) ジョイスティックをビープ音がする点まで後ろに倒します。
- ドライブアウェイロックが有効化されたことを知らせる長いビープ音が鳴ります。
- コントロールユニットはオフになります。
- [選択した速度レベル] のLED表示のインジケータが順次点灯していればドライブアウェイロックは有効です：

ディスプレイ画面	備考
「速度レベル」LED上でインジケータが順次点灯	ドライブアウェイロック

#### ドライブアウェイロックの無効化

ユニットがオンになると、「充電レベル」LED表示がオフで、「選択した速度レベル」LED表示が順次点灯します。

- 1) ジョイスティックをビープ音がする点まで前に倒します。
  - 2) ジョイスティックをビープ音がする点まで後ろに倒します。
  - 3) ジョイスティックを離します。
- 走行機能が有効化されたことを知らせる長いビープ音が鳴ります。
- [充電レベル] LEDインジケータが点灯します。
- ドライブアウェイロックが無効化され走行が可能になりました。

#### トラブルシューティング

無効化の手順が正しく完了されない場合、ドライブアウェイロックは有効なままです。

- 1) ドライブアウェイロックを再び無効化するには、一度コントロールをオフにします。
- 2) 電動式車いすをオンにします。
- 3) ドライブアウェイロックを再び無効化します。

#### 7.7.9 走行特性の調整

##### ⚠ 警告

##### コントロールデバイスの誤った設定

パラメータを誤って設定すると転落、転倒、衝突の原因となります。

- ▶ コントロールデバイスのパラメータ設定を行うことができるのは有資格担当者のみです。本製品の製造元およびコントロールデバイスの製造元は、パラメータが誤って設定されていた場合、また使用者の能力に応じて適切な調整が行われていなかった場合、損害に関して一切の責任を負いません。

速度、加速度、減速度の調整と設定は、個々の使用者の要求に合わせて、有資格担当者のみが行います。

#### 7.8 ブレーキの有効化/無効化

##### ⚠ 警告

##### 制御できない転がり

ブレーキがロックされていないことによる転倒や付近にいる人または物品への衝突

- ▶ ブレーキのロックが解除されているときにはブレーキ機能が効かないことに注意してください。ブレーキ機能のロック解除は補助者が傍にいる状態でのみ行ってください。
- ▶ ブレーキ解除レバーに使用者の手が届かない場合は、補助者がブレーキのロックを解除することができます。
- ▶ 電動式車いすを傾斜のある場所で移動させる場合、車いすを押している補助者に車いすを停める力がなければならぬという点にご留意ください。
- ▶ 電動式車いす駐車の際には常にブレーキがロックされていることを確認してください。

##### ⚠ 警告

##### 誤ったブレーキのメンテナンス、修理、調整

誤った操作による転落、転倒、付近にいる人または物品への衝突

- ▶ ブレーキの修理および調整は有資格担当者のみが行ってください。誤った調整によりブレーキ効果が失われることがあります。

**備考**

ブレーキのロックが解除されるとコントロールパネルのコントロールデバイスが信号を發します。これが確認できない場合、不具合が発生しています。有資格担当者に速やかに修理を依頼してください。

コントロールデバイスが故障した、または充電式バッテリーが十分に充電されていない場合は、電動式車いすは手で押すことができます。

そのためにはブレーキ解除機構を使ってブレーキを無効化します。ブレーキ解除機構は駆動モーターの左右に設けられています。



**ブレーキのロック解除/無効化**

- 1) コントロールデバイスをオフにします。
  - 2) 両駆動モーターのブレーキ解除レバーを押し下げます (画像参照 11、1)。
- 駆動モーターが解除され電動式車いすにはブレーキ機能がない状態になります。
- コントロールデバイスをオンにした後：コントロールデバイスがブレーキのロックが解除されたことを検知し、コントロールパネルに警告が表示されます。追加で音声警告も發せられます。

**ブレーキをロック/有効化**

- 1) コントロールデバイスをオフにします。
  - 2) 両駆動モーターのブレーキ解除レバーを押し上げます (画像参照 11、2)。
  - 3) コントロールデバイスをオンにします。
- 走行機能が有効化されます。

**ブレーキ無効：コントロールパネルに警告**

ディスプレイ画面	備考
 9回点滅*	ブレーキロック解除 (39 ページ参照) 注記: 5つ全てのLEDが9回短く点滅します。一旦それが止まり、その後もう一度9回短く点滅します。

\*音声警告も鳴ります。

**7.9 充電式バッテリー/充電プロセス**

**7.9.1 安全に関する注意事項**

**△ 注意**

**使用前に充電レベルを点検していない**

突然の停止により使用者負傷の危険、予期せぬモーター停止によるトラブル

- ▶ 使用前に必ず充電式バッテリーの充電レベルを点検してください。
- ▶ 常に予定している走行距離に見合った充電レベルが充電式バッテリーにあることを確認してください。
- ▶ 充電式バッテリーがほぼ完全に放電された状態では絶対に走行しないでください。
- ▶ 充電式バッテリーがほぼ完全に放電されている場合、速やかに充電を行ってください。

**注記**

**認められていない充電式バッテリーに交換**

本製品に認められていない改造に起因する充電式バッテリーの破損

- ▶ バッテリーの交換やバッテリーの取り付け位置の変更は、製造元の訓練を受けた有資格担当者のみが行います。
- ▶ 工場設定されている充電器の充電プロファイルは、同時に納品されたバッテリーに合わせて調整されています。これを個別に変更することはできません。

**7.9.2 一般情報**

この電動式車いすにはメンテナンスフリーの充電式バッテリーが装備されています。充電式バッテリーの容量に関しては、「テクニカルデータ」のセクションを参照してください。

充電式バッテリーはバッテリーカバーで保護された状態で電動式車いすのシートの下に配置されています。

バッテリーの残量が少ない状態で長時間運転すると、過放電やバッテリー破損の原因となります。直前に走行速度が下がり、使用者にバッテリーの過放電に関する警告が表示されます (39 ページ参照)。

### 7.9.3 充電式バッテリーの充電に関して

充電式バッテリーは充電を約20サイクル行って初めて全容量に充電できるようになります。充電式バッテリーの容量が完全に充電できると、電動式車いすは仕様の走行距離を達成することができます。

0 ° C/32 ° F未満の温度では、充電容量が20 ° C/68 ° Fの外気温で想定されている容量から最大35パーセント低下します。これによりその分電動式車いす航続距離も短くなります。また、コントロールパネルに表示される充電レベルが実際の定格バッテリー容量とは大きく異なることがあります。

最適な充電サイクルに関しては以下の情報をご確認ください。

- ・ 充電式バッテリーはその時点での充電レベルを問わずいつでも充電することができます。
- ・ 放電されたバッテリー（セグメントが1つだけ点滅）が完全充電されるまで、約10～12時間かかります。充電器は完全充電レベルを維持できるようにプログラムされており、電動式車いすを電源に接続した状態でも心配はありません。
- ・ 電動式車いすを毎日ご利用になる場合、充電式バッテリーは毎晩充電してください。
- ・ 充電式バッテリーは決して完全に放電（過放電）しないでください。
- ・ 充電式バッテリー充電後、車いすを3日以上使用しない場合は、バッテリーケーブルをコントローラーのプラグ接続から外してください。しかし、バッテリーケーブルは充電前と電動式車いす使用前に毎回正しく再接続してください (13 ページ参照)。
- ・ 車いすを長期間使用しない場合、充電式バッテリーは徐々に放電していきます。電動式車いすを長い期間使用しない場合は、容量を維持していくために週に1度は充電が必要です。
- ・ 充電中は充電電流がすべて充電式バッテリーに供給されるように、電動式車いすのコントロールデバイスをオフにしてください。

### 7.9.4 充電器

#### 注記

#### 充電器の誤った取り扱い

使用者の取り扱いミスによる充電器および充電式バッテリーの破損

- ▶ 充電器は、それぞれの充電式バッテリーとの使用が検証され、承認された Ottobock提供のもの以外は使用しないでください (充電器の情報を参照してください)。
- ▶ 充電器のネームプレートに記載されている情報が、それぞれ使用される電源、その国の電圧と一致していることを確認してください。
- ▶ 充電器は屋外では使用しないでください。
- ▶ 充電器は規定されている温度/湿度の範囲で使用してください。
- ▶ 充電器は平らな面に置いてください。
- ▶ 充電器が窓の傍に置かれている場合、直射日光から保護してください。
- ▶ 充電器の過熱は避けてください。
- ▶ すべての電力が使用されることなくバッテリーに供給されるよう充電中はコントロールデバイスをオフにしてください。
- ▶ 埃、汚れ、水分から保護してください。
- ▶ 充電器の清掃には乾燥した布のみを使用してください。

この充電器はメンテナンスフリーおよびローメンテナンス充電式バッテリー用に設計されています。使用方法やLEDディスプレイの詳細については、充電器付属の取扱説明書をご覧ください。

### 7.9.5 バッテリーの充電

#### 警告

#### 充電器の誤った取り扱い

通電パーツに触れると感電するおそれがあります。

- ▶ 通電のあるパーツは触らないでください。充電器がオンの場合は充電器およびケーブルは通電しています。
- ▶ 絶縁カバーや保護カバーを取り外さないでください。

**警告**

**充電器の誤った取り扱い**

監視を怠ると充電器破損の原因となります。

- ▶ 充電器の使用は正しく安全な使用を理解している人物のみが行うものとします。使用者は該当する取扱説明書を読み、それを理解していなければなりません。
- ▶ 充電器はお子様の手の届かないところに置いてください。
- ▶ 子供や認知能力が限られている人物が充電器を使用する場合は、十分な知識を持つ責任者の監督が必要になります。

**警告**

**充電式バッテリー充電中の爆発性ガスの発生**

使用者のエラーに起因する爆発、それに伴う火傷

- ▶ 室内は十分に換気してください。
- ▶ 喫煙や点火は禁止されています。
- ▶ 付近で火花がでないよう十分注意してください。充電式バッテリーの接続を外す前に充電器をオフにし電源プラグを外してください。
- ▶ トリムに設けられている通気口を覆わないでください。
- ▶ 充電器は、それぞれの充電式バッテリーでの使用が製造元により検証され、承認されたもののみを使用してください（充電器の情報を参照してください）。これに従わなかった場合、充電式バッテリーの爆発、それに伴う人体負傷の原因となります。

**警告**

**充電中充電器が十分に通気されていない**

充電器の過熱/発火による火傷の危険

- ▶ 充電中に充電器が過熱することがないように注意してください。
- ▶ デバイスの背面にある冷却用ファン/換気スロットが覆われていないことを確認してください。

**注記**

**誤った充電方法**

使用者のエラーによる充電式バッテリーの破損

- ▶ 製造元の取扱説明書の指示に従ってください。充電式バッテリー製造元の安全注意事項に従ってください。
- ▶ 充電式バッテリーの過放電は避けてください。過放電に起因する損害については保証いたしかねます。
- ▶ コントロールパネルで過放電が表示された場合（「ボタンと表示機能」のセクションを参照）は、速やかに充電を開始してください。

**備考**

充電式バッテリーを長くご利用いただくためにも、電動式車いすのバッテリーを週に1度は長時間（15～20時間以上）充電してください。

12



**コントロールパネルを介した充電プロセス**

- 1) 電動式車いすのコントロールデバイスをオフにします。
- 2) 充電器のプラグを電動式車いすコントロールパネルの充電差し込み口に接続します（画像参照 12、1）。  
備考: コントロールパネルの充電差し込み口で行われる充電の最大電流は5Aである点にご注意ください。
- 3) 充電器を電源に接続します。  
→ 充電プロセスは自動的にスタートし、バッテリーの充電レベルはコントロールパネルのバッテリーインジケータ（17ページ参照）および充電器上に表示されます。
- 4) 充電が完了したらコントロールパネルから充電プラグを外します。  
備考: 充電プラグが接続された状態では電動式車いすを走行することはできません。

- 5) 充電後充電器の充電プラグを電源から外します。
- 6) 電動式車いすのコントロールデバイスをオンにします。これで電動式車いすを使用することができます。

## 7.10 シート

### 7.10.1 安全に関する注意事項

#### 警告

##### シートクッションとバックレストカバー付近の火気

使用者の誤った使用による火傷の危険

- ▶ シートクッション、バックレストカバー、アームパッドは耐燃性基準の要件を満たしています。ただし、火気を不適切または不注意に扱うと点火するおそれがあります。
- ▶ あらゆる火元、とくにタバコの火からは離れてください。

#### 注記

##### 不適切な使用により発生する危険性

使用者のエラーによるシート面の破損

- ▶ クッションに鋭利なものが接触しないように注意してください。爪のある猫などのペットにも注意してください。
- ▶ シートに飲み物をこぼす、またはシート状での失禁などが考えられる場合には必ず、防水カバーを使用してください。
- ▶ 本製品にはOttobock社が提供する防水カバーのみを使用してください。交換用Ottobock カバーをお求めの際は有資格担当者にお問い合わせください。

### 7.10.2 シートクッション

車いすシートクッションは座っている間にかかる圧力を分散します。モデルによっては、シートクッションに弾力性のあるフォーム部分や、ジェルや空気入りのインサートが使用されているものもあります。中には体の形状を考慮し成形されたフォームが使用されているものもあります。

カバーと通気性のある素材は座ったときに体にかかる圧力を軽減し、使用者にハイレベルのコンフォートを約束します。

シートクッションはお手入れのために取り外すことができます。お手入れ後は、シートクッションがスライドしないように面ファスナーでしっかりとシートに固定します。

使用方法、お手入れ方法、メンテナンス方法に関する詳細はシートクッションに同梱されている取扱説明書に記載されています。

## 7.11 位置決めベルト（ラップベルト）

位置決めベルト（ラップベルト）は使用者がシートから滑ることを防ぐためのものです。

### 7.11.1 調整

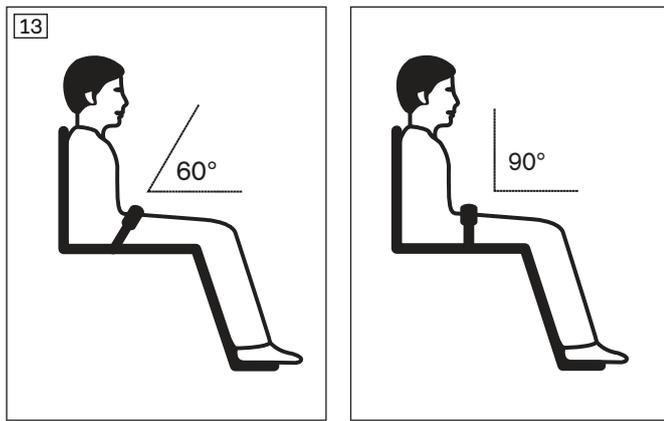
#### 注意

##### 誤った調整

調整変更による、使用者の負傷、不良肢位、不快感

- ▶ 位置決めベルト（ラップベルト）はシートユニット/シートソリューションにおいて重要な役割を果たしているパーツです。有資格担当者に取り付けた位置および基本設定に変更を加えないでください。
- ▶ これらの設定に問題がある場合（座位の不具合など）は、調整を行った有資格担当者に速やかにご連絡ください。
- ▶ 位置決めベルト（ラップベルト）の着用で不快感や危険を感じた場合は、直ちに有資格担当者にご相談ください。
- ▶ 位置決めベルト（ラップベルト）の基本設定は定期的に点検してください。使用者が成長している場合、病状に変化がある場合は、再調整が必要となることがあります。

使用者または補助者はベルトの長さを少し調整することができます（厚さの異なる衣類に合わせるなど）。ベルトの長さ調整は位置決めベルト（ラップベルト）の片側で行います。余分なベルトは、プラスチック製のスライダに取り込まれます。



**使用者をシートに正しく配置**

- ・ 使用者に（身体的に可能であれば）背筋を90° 伸ばした状態で座ってもらいます。
- ・ 背中が（身体的に可能であれば）バックレストパッドにあたっていることを確認します。
- ・ ラップベルトは座面に対して約60～90° の角度で、骨盤の前を渡るように配置します。

**考えられる配置エラー**

- ・ ラップベルトが骨盤上にある柔らかい腹部組織にあたっている。
- ・ 使用者がシートにまっすぐ座っていない。
- ・ ラップベルトが緩すぎると、使用者が前にずれる/滑ることがあります。
- ・ 取付/調整時に、ラップベルトがシートシステム（前腕レストやシートパッドの上など）にかかっている。ラップベルトの保持機能が失われます。



**ベルトの長さ調整**

- 1) 使用者にシート上で姿勢を整えてもらいます。そのためにはまず前のセクションで説明されている配置を正しく行ってください。
- 2) ベルトを締めます（次のセクションを参照）。
- 3) 両バックルを腿の上、上体の前中央に置きます。
- 4) ベルトバックルを直角に立てます（画像参照 14、1）。
- 5) 希望の長さに調整するために、必要に応じてベルトの端を引いたり戻したりします（画像参照 14、2）。
- 6) バックルを開きます。
- 7) 正しい長さであるかを点検します。

**警告!** 位置決めベルト（ラップベルト）は体にぴったりと沿っている必要がありますが、使用者に負傷をまねく原因となりますので、きつく締めすぎないでください。ベルトと腿の間に指を2本通せる状態にしてください。

**7.11.2 使用方法**

**警告**

**ベルトの誤った配置**

前方への滑りによる呼吸困難、窒息

- ▶ 乗り込んだらすぐ位置決めベルト（ラップベルト）を装着し、乗車中は常に装着した状態を保ってください。
- ▶ バックルが体の中央にあることを確認してください。
- ▶ 物や衣類が引っかかっている場合はそれを取り除いてください。

**注意**

**不適切な使用により発生する危険性**

誤った使用による使用者の転落、転倒の危険

- ▶ 位置決めベルト（ラップベルト）は、製品から降りる準備が整うまで外さないでください。
- ▶ 使用者の認知能力が原因で、不意にベルトを開けるおそれがある場合は、使用者を一人で放置しないでください。
- ▶ 部品の購入や後付けに関する情報は、この製品を納品した有資格担当者が使用者/補助者の方にお渡ししています。

**△ 注意****医学的な危険**

誤った使用による負傷や褥瘡の危険

- ▶ 局所的にかかる圧力を取り除く、または皮膚状態のチェックなど、定期的な対策が必要となります。皮膚の炎症や発赤が発生した場合は、製品を調整した有資格担当者にご相談ください。有資格担当者との話し合いが行われるまで製品の使用を中止してください。

**位置決めベルト（ラップベルト）の装着**

> 前提条件: 前のセクションで説明されている方法で使用者が正しく座っている。

- 1) バックルがはまる音が聞こえるまで、バックル両端を相互に押しします (画像参照 15、1)。

**警告!** 位置決めベルト（ラップベルト）は体にぴったりと沿っている必要がありますが、使用者に負傷をまねく原因となりますので、きつく締めすぎないでください。ベルトと腿の間に指を2本通せる状態にしてください。

- 2) 引っ張って確実に閉まっていることを確認します。

**位置決めベルト（ラップベルト）を開く**

- 1) バックルの両側を押しします (画像参照 15、1)。
- 2) ベルトを開き脇に垂らしておきます。

**位置決めベルト（ラップベルト）のお手入れ****備考**

製品上にあるお手入れ方法および本製品に同梱されている該当する取扱説明書の指示に従って下さい。

- ・ モデルによってはプラスチック製バックルの付いたベルト/ストラップを洗濯機で 40° C ~ 60° C の水温で洗うことができます。
- ・ **推奨:** ランドリーバッグまたは洗濯ネットに入れ、中性洗剤で洗濯してください。
- ・ また、ベルトストラップは、洗剤（消毒剤を含む）の入った温かい水で軽くたたか、乾燥した清潔な吸収性のある布で丁寧に拭き取ることも可能です。

**その他のお手入れ方法**

- ・ ベルトは自然乾燥させます。取り付け前にベルトおよびパッドが完全に乾燥していることを確認してください。
- ・ ベルトを熱に直接あてて乾燥させないでください (直射日光、暖房、または放熱器など)。
- ・ ベルトにアイロンをかけたり漂白剤を使用しないでください。

**7.12 追加オプション**

本製品には追加オプションのパーツが装備されていることがあります。オプションは、有資格担当者または製造元が製品に装備し、有資格担当者が事前設定するものです。

**7.12.1 ライト**

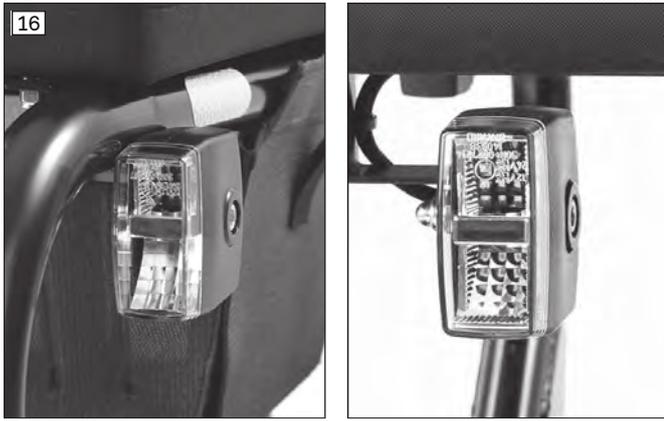
壊れたランプの交換に関する情報: 38 ページ参照。

**7.12.1.1 道路交通用ライト**

電動式車いすのなかにはライトセットが装備されているものがあります。

ハザードランプ、左右方向指示器、ライトの操作は装備されているライトモジュールで行います。

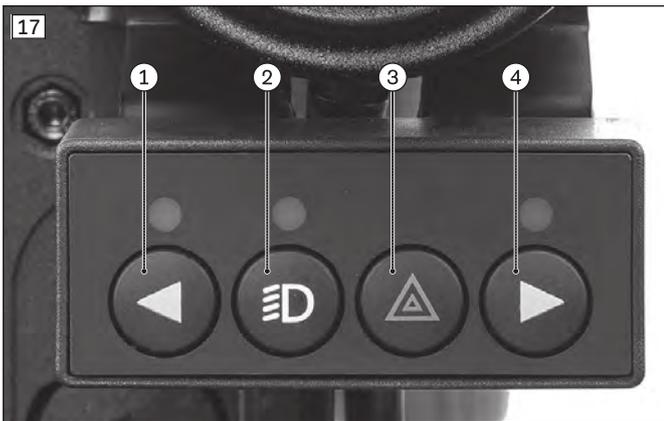
暗い時間帯での道路走行を可能にするこのライトは、電動式車いすのみで使用することが認められているものです。



**フロント/リアライト**

フロントライトは、LED方向指示器を内蔵した2つのLEDフロントライトから構成されています。（画像参照 16、左）。

リアライトは、LED方向指示器を内蔵した2つのLEDリアライトから構成されています。（画像参照 16、右）。



**ライトモジュール各部名称**

- 1 [方向指示 左] ボタン (LED表示付き)
- 2 [ライト オン/オフ] ボタン (LED表示付き)
- 3 [ハザードランプ オン/オフ] ボタン
- 4 [方向指示 右 - オン/オフ] ボタン (LED表示付き)

**[ライト オン/オフ] ボタン**

このボタンでフロントおよびリアライトをオン/オフすることができます。ライトがオンの場合、ボタン上にあるLEDが点灯します。

**[ハザードランプ オン/オフ] ボタン**

このボタンで4つ全てのハザードランプをオン/オフすることができます。

**[方向指示 右] および [方向指示 左] ボタン**

このボタンでフロントおよびリアの方向指示器をオン/オフすることができます。これがオンの場合、ボタン上にあるLEDが点灯します。

**7.12.1.2 ライト（道路交通用ではありません）**

電動式車いすのなかには歩道用ライトが装備されているものがあります。このライトは夜間における歩道での走行を見やすくします。これが装備されていても電動式車いすを道路交通で走行することは認められていません。



**ライトの使用**

[ライト オン/オフ] ボタンでは、ライトを点灯/消灯することができます（画像参照 18、1）。

ライトはゴムベルトを使って取り外しができます（画像参照 18、2）。

原則として、ライトは進行方向の前右側に取り付けられています。

内蔵の充電式バッテリーの充電は、付属のUSBケーブルをPCまたはUSB接続がある充電器に接続し行います（充電器は納品内容に含まれていません）。

### 7.12.2 コントロールパネルホルダー

#### 備考

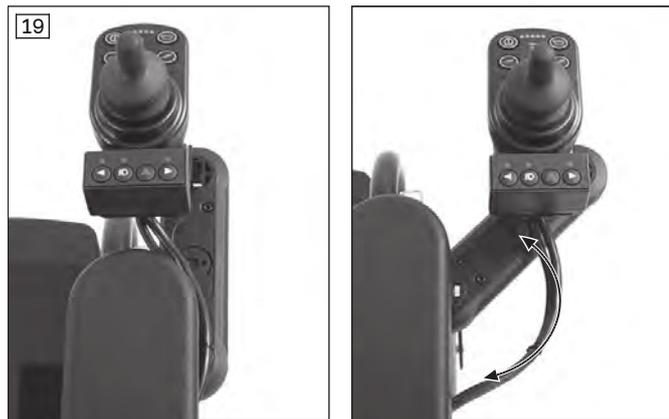
通常、コントロールパネルはご注文時に指定された側に取り付けられています。また、使用者のご希望があれば、後から反対側に取り付けることも可能です。製品の納品を行った有資格担当者までご連絡ください。

この電動式車いすにはコントロールパネルホルダーが標準装備されています。代替的に、本製品には振り出し式のコントロールパネルホルダーを装備することもできます。

#### 振り出し式コントロールパネルホルダー

このコントロールパネルホルダーを使えば、電動式車いすをテーブルやそのほかの物体に近づけさせることができます。

コントロールパネルホルダーはアームレストの位置までスライドさせることができます。



#### コントロールパネルホルダーの振り出し

- 1) コントロールパネルホルダーに少し力を入れて押しします。  
→ 回転体が自由に動けるようになります。
- 2) コントロールパネルホルダーを脇に振り出します。  
備考: 回転体は本来の位置に戻ると再びロックされます。

#### コントロールパネルの取り外し/取り付け

コントロールパネルホルダーをコントロールパネルから外すことはできません。

### 7.12.3 足置き用ベルト

電動式車いすのなかには足用の位置決めベルト1本または2本が装備されているものがあります。この位置決めベルトは使用者の足をフットプレートに固定します。



#### フットストラップの使用

- 1) 位置決めベルトの面ファスナーを開けます。(画像参照 20、1)。
- 2) 使用者の足が足部プレートに全面であたるように乗せてください。
- 3) フットストラップを使用者の足の甲の上に渡します(図示なし)。
- 4) 面ファスナーを使ってストラップを足の上または横で締めます(画像参照 20、1)。フットストラップは、きつく締めすぎないでください。

### 7.12.4 収納バッグ

#### 注記

#### 収納バッグの詰め過ぎ

バッグ破損に伴う本製品の破損

- ▶ 収納バッグに入れられる荷物の最大重量は 3 kg です。
- ▶ 収納バッグの内容物の重量は製品全体の最大積載量の一部となる点にご注意ください(41 ページ参照)。

電動式車いすのなかには収納バッグが装備されているものがあります。これはシート下に配置されています。



#### 収納バッグの使用

- 1) シート下にある収納バッグの横にあるマグネット留め具を開きます (画像参照 21、 1)。そのためには横にあるループを引きます (画像参照 21、 2)。
- 2) 収納バッグに物を入れます。
- 3) マグネット留め具を閉じるには、開いた部分をベースフレームのパイプに向けて畳みます (画像参照 21、 1)。

### 7.12.5 追加オプション一覧

#### 備考

これらの後付けオプション、その他オプションは注文書に記載されています。

この電動式車いすには追加オプションが装備されています：

- ・ 駆動車輪用泥よけ
- ・ ジェルバッテリー
- ・ ドリンクホルダー
- ・ 携帯電話用バッグ
- ・ 松葉杖ホルダー
- ・ ヘッドサポート取り付けキット用アダプター

### 7.13 解体および輸送

人が乗っていない電動式車いすは車や飛行機で輸送することができます。

#### 7.13.1 安全に関する注意事項

#### 警告

##### 飛行機での誤った輸送

輸送の規則を守らなかったことに起因する火傷、爆発、バッテリーの損傷

- ▶ 電動式車いすを飛行機で輸送する際にはIATA (国際航空運送協会) および各航空会社の規定に従ってください。荷物として電動式車いすを手荷物としてチェックインする前に、必ず充電式バッテリーとコントロールデバイスの接続を外してください。そのために、バッテリーケーブルのプラグをコントローラから外し、バッテリーケーブルのプラグを絶縁して短絡を防止してください。
- ▶ 特に防漏性ではない、立てた状態で輸送しなければならない充電式バッテリーの場合では、漏れや短絡を防ぐために取り外して梱包する必要がある点に注意してください。
- ▶ 詳しい情報は [www.iata.org](http://www.iata.org) でご確認ください。製造元では、出発前に直接航空会社と連絡を取り特別輸送規制に関する情報を確認することを推奨しています。
- ▶ 必要な場合、モビリティ制限のタイプを知らせるためにSSR (特別サービスリクエスト) コードをご利用ください。このコードは、インターネットで調べることができます。

#### 注意

##### 輸送時の電動式車いすの誤った固定

輸送に関する指示に従わない場合、体位の圧潰、挟まりのおそれがあります。

- ▶ 車両や航空機での輸送中、昇降台やエレベーターでの移動中は、電動式車いすのコントロールユニットをオフにしてブレーキをロックしてください。
- ▶ 輸送手段の規定に基づき電動式車いすはしっかりと固定してください。
- ▶ 車両での運搬時には、電動式車いすはカーゴストラップで確実に固定してください。カーゴストラップは、そのために設けられているアイレットと指定されているタイダウンポイントにのみ取り付けてください。

## 注記

## 電動式車いすの誤った持ち上げ

輸送に関する指示に従わない場合、電動式車いすを破損する原因となります。

- ▶ 電動式車いすの積載および運搬の際には、必ずバックレストを座面の上に倒すか、垂直な状態にしてから行ってください。
- ▶ 持ち上げ作業は十分な大きさの吊り上げ装置を使用するか、アシスタントのサポートを受けながら作業を行ってください。アシスタントがいる場合、それぞれ各側に1人を配置しシート下のフレームチューブを両手で掴むようにしてください。電動式車いすの重量に関しては、「技術データ」のセクションを参照してください。
- ▶ 動く部品または調整可能な部品には、吊り上げ装置を取り付けしないでください。

## 7.13.2 輸送に向けて小さくする

輸送に向けサイズをいくつかの手順で小さくし、輸送を楽にすることができます。

22



## 輸送準備

- 1) フットレストにあるフットプレート跳ね上げます (14 ページ参照)。
- 2) アームレストを跳ね上げます (14 ページ参照)。
- 3) バックレストのクランプピン (クランプ) を引いて外し、バックレストを座面に倒します (15 ページ参照)。クランプピン (クランプ) を再び取り付けます。
- 4) アームレストを下に戻します (14 ページ参照)。
- 5) アームレストのクランプピン (クランプ) を手で引いて外しアームレストを一番低い位置に移動します (13 ページ参照)。クランプピン (クランプ) を再び取り付けます。
- 6) 代替的にアームレストを取り外し、バックレストの上に乗せることもできます (画像参照 22)。

## 7.13.3 輸送準備

23



## 電動式車いすの輸送

- 1) 電動式車いすを輸送位置に持ち上げます。  
備考: 吊り上げ装置を使わずに作業を行う場合は、アシスタントのサポートを受けながら作業を行ってください。アシスタントと二人でそれぞれ各側に一人を配置しシート下のフレームチューブを両手で掴むようにしてください。
- 2) コントロールデバイスをオフにします (16 ページ参照 ff.)。
- 3) ブレーキがロックされていることを確認します。ブレーキがロックされていない場合: ブレーキをロックしてください (23 ページ参照)。
- 4) 電動式車いすをフレームチューブに通したテンションストラップで搬送手段に固定してください (画像参照 23; 推奨されているフロントの固定点: 1, 推奨されているリアの固定点: 2)。

## 7.14 モビリティに制限のある方が車で移動するために使用します

### 警告

モビリティが低下した方用の車両で移動するために使用します

使用者の操作ミスにより重度の負傷が発生するおそれがあります

- ▶ モビリティが低下した方用の車両では、車内に設置されている安全拘束装置を必ず使うようにしてください。これは事故の場合、搭乗者の最適な保護を確実にする唯一の方法です。
- ▶ モビリティが低下した方用の車両の車内において、本製品を座席として使用される場合は、製造元が提供する安全ユニットと適切な安全拘束装置を使用してください。詳細については、パンフレット（注文番号 646D158）をご確認ください。
- ▶ 本製品に乗ることができるのは1名のみです。
- ▶ モビリティが低下した方用の車両へスロープを使って昇る際には最大登坂角度を確認してください（「テクニカルデータ」のセクションを参照）。また、使用で認められている条件の範囲内で安全に取り扱うことができるかどうかを確認してください。
- ▶ モビリティに制限のある方用の車両に電動式車いすを配置した後コントロールデバイスをオフにします。
- ▶ モビリティに制限のある方用の車両で移動させる時には、電動式車いすの背もたれは垂直位置にしてください。
- ▶ 搭載されているオプションそれぞれの制限を確認してください（36 ページ参照）。

### 警告

モビリティに制限のある方が車両で移動する場合、車両のベルトシステムを安全拘束装置として使用することは禁止されています。

本製品の誤った取り扱いにより重度の負傷が発生するおそれがあります

- ▶ 本製品で提供されているベルトおよび座位決め補助具はモビリティに制限のある方を移動させる車両安全拘束システムの一部としては使用できません。
- ▶ 本製品のベルトおよび座位決め補助具は、本製品に座っているユーザーをサポートすることのみを目的としています。

モビリティに制限のある方が車両で移動する際に座席としての本製品を使用することは、以下に定義されている条件下、ISO 7176-19 に従った方法で製造元により検証済みです。

モビリティに制限のある方が車で移動する際は、本製品が適切に固定されている必要があります。以下の図は、自動車に固定する例を示しています。

製造元は、使用される固定システムについて一切責任を負いません。適用される法的要件を満たし、またユーザーを含む本製品の総重量に合わせて設計された固定システムのみを使用してください。

モビリティに制限のある方が車両で移動する場合の輸送重量は、最大許容ユーザー体重と同等とみなしてください(41 ページ参照)。

### 7.14.1 必要な付属品

モビリティに制限のある方が車椅子を座席として使用し車両で移動する場合、4つのベルトループが必要です（ISO 10542-1または同等の試験規格に従い検証済み）。詳細情報は本車椅子を調整した有資格者にお問い合わせください。

#### 必要な材料

- ・ ベルトループ 4本 (ISO10542-1に従った方法で試験済みのQ'STRAINまたはUnwin Safety Systemsなど)

### 7.14.2 車両内での本製品の使用

### 警告

モビリティに制限のある方を車で移動するための設置作業

使用者の操作ミスにより重度の負傷が発生するおそれがあります

- ▶ 車いすをモビリティが低下した方用の車両に設置する作業は有資格担当者のみが行ってください。
- ▶ モビリティが低下した方用の車両の車内で本製品を座席として使用される場合は、車いすは進行方向に向いている必要があります。
- ▶ 以下に記されている取り付け時の注意を有資格担当者に伝えてください。

**警告**

車両における不十分な安全性の確保による危険

輸送に関する指示に従わない場合、安全拘束装置が外れるおそれがあります

- ▶ モビリティに制限のある方が車で移動する場合は、正しい安全輸送に関する以下の指示に従ってください。
- ▶ 必要な場合、有資格者に以下の情報を提供してください。

## モビリティに制限のある方を車両で移動させる時の本製品の固定方法

モビリティが低下した方用の車両の車内では、この車いすを4本のベルトループを使って車両に用意されている安全拘束装置に取り付け、固定します。

ベルトループの固定点はシールでマーキングされています。これらのシールはフレームパイプ上でベルトループを通す点を示しています：



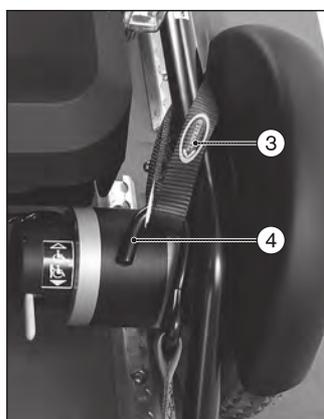
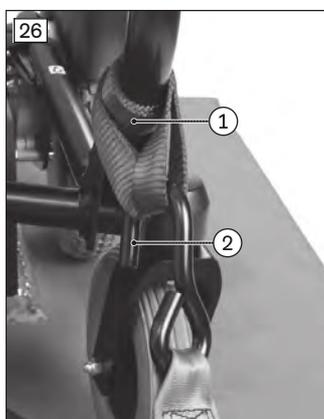
## 固定点を見つける

- ・ 前方の固定点を示すシールは、両側のキャスター取付装置の上の前方フレームパイプにあります（画像参照 24、1）。
- ・ 後方の固定点を示すシールは両側の駆動車輪の前と揃った位置にあるフレームパイプ中央にあります（画像参照 24、2）。



## 車内での電動式車いすの固定

- 1) モビリティが低下した方用の車両に電動式車いすを配置します。詳細情報はパンフレット（注文番号 646D158=\*）の第5章「モビリティに制限のある方を車両で移動」をご確認ください。
- 2) コントロールデバイスをオフにします（20 ページ参照）。
- 3) ブレーキがロックされていることを確認します。必要な場合ブレーキをかけます（23 ページ参照）。
- 4) 車両に設けられている安全拘束装置のベルトを取り付けます（次のイラストを参照）。

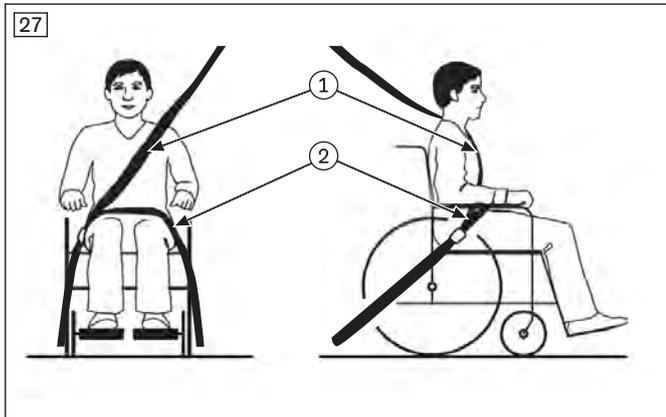


## ベルトループと取り付け用ストラップ

- 1) 前方固定点: マーキングのある点でベルトループを2回巻いて、各フレームパイプに取り付けます（画像参照 26、1）。
- 2) 車両に設けられている車いす安全拘束ベルトのフックを左右ベルトループにそれぞれ外側からかけます（画像参照 26、2）。
- 3) 後方固定点: ベルトループをそれぞれのマーキングのある点で1回巻いて、各フレームパイプに取り付けます（画像参照 26、3）。
- 4) 車両に設けられている車いす安全拘束ベルトのフックを左右ベルトループにそれぞれ外側からかけます（画像参照 26、4）。
- 5) 車両に設けられている安全拘束装置のベルトを前後でしっかりと締め上げます。  
→ 付属ストラップが正しく配置されている製品（画像参照 25）。

モビリティに制限のある方を移動する車内での正しい安全輸送に関する情報

- ・ モビリティが低下した方用の車両では、車内に設置されている安全拘束装置を使用してください。車いすにモビリティが低下した方用の車両の乗員用安全拘束装置を取り付けることは禁止されています。車両では3点拘束が義務付けられています：
  - 安全拘束装置のラップベルトは、通常、有資格担当者が電動式車いすの後ろで床に取り付けます。
  - 安全拘束システムのショルダーベルトは通常車両の支柱に取り付けられており、有資格担当者がラップベルト上にあるそれに対応する取り付け点/ピンに取り付けます。



- ・ 安全拘束システムのベルトは常に使用者の体にぴったりと沿うように通してください。ベルトはサイドパネルや車輪の上を渡さないでください（画像参照 27 item 2）。
- ・ ショルダーベルトは常に使用者の肩の上を通るようにしてください。有資格担当者がショルダーベルトを使用者の上また後ろにくる位置で固定します（画像参照 27, item 1）。
- ・ ベルトのストラップが使用者の体の上でねじれていないよう注意してください。
- ・ 車両の床に固定された安全拘束ベルトは、着用された際にできるだけ張りのある状態に引っ張っておく必要があります。

モビリティに制限のある方を車両に載せて移動させるための車両に設置されている安全拘束装置の配置

- 1) 拘束装置のラップベルトの両端を外側からシートの内側へ引きます。
- 2) 上記の方法で、車両の底部に拘束ラップベルトの各端を取り付けます。  
備考: 移動中使用者を正しい位置で固定するために電動式車いすのラップベルトも使用してください。
- 3) ショルダーベルトを使用者の上および後ろに固定します。

7.14.3 使用制限

**警告**

特定の設定および/または取り付けられているオプションで製品を使用することによる事故や負傷の危険オプションが外れることにより事故時に重篤な負傷が発生するおそれがあります

- ▶ モビリティに制限のある方を移動させる車両内で本製品を座席と使用する前に、安全な移動のために取り外すべきオプションは必ず外してください。以下の表をご確認ください。
- ▶ モビリティに制限のある方を移動させる車両内では、取り外したパーツを安全に収納してください。
- ▶ 本製品のいくつかの設定は、モビリティに制限のある方を移動させる車両内で使用することができないためご注意ください。

付属品*	モビリティが低下した方用の車両の車内で取り外し要	オプションを取り外すこと	オプションを製品に固定すること
ヘッドサポートアダプター取り付けキット		X**	
シート下の収納バッグ			X***
松葉杖ホルダー	X****		
ドリンクホルダー			X***
携帯電話用ポケット			X***
コントロールパネルホルダー、振り出し式、高さ調整可能			X
足置き用ベルト			X*****

\*以下のリストは一覧です。全てのオプションが全ての製品に取り付けられているわけではありません。

\*\*アダプターは車いすに取り付けたままにしておけますが、ヘッドサポートは取り外してください。

\*\*\*この印のオプションは製品につけたままにしておけます。収納バッグは空の状態であればなりません。ドリンクおよび携帯電話は本製品から取り除いてください。

松葉杖ホルダーはモビリティが低下した方用の車両の固定の邪魔になります。完全に取り外す作業は有資格担当者が行います。

\*\*\*\*\*足用位置決めベルトは取り付けただままにしておけますが、移動中使用者はこれを使用しないでください。

## 7.15 お手入れ方法

### 7.15.1 安全に関する注意事項

#### ⚠ 注意

不十分または不適切なお手入れにより発生する危険

感染症により健康上の危険が生じたり、使用者が誤って使用することで製品が破損するおそれがあります。

- ▶ 本製品は定期的に清掃してください。
- ▶ 洗浄中は、電子機器、モーター、バッテリーに水が直接かからないように注意してください。ウォータージェットや高圧洗浄機での洗浄は絶対に行わないでください。
- ▶ 細菌汚染を防ぐために、シートクッションやバックレストカバーは汚れたらすぐに洗浄してください。
- ▶ 洗浄後、走行の様子を点検してください。

### 7.15.2 お手入れ方法

汚れや使用頻度に応じて少なくとも毎月1回は定期的に製品のお手入れを行ってください。

- ・ コントロールパネル、充電器、アームレスト、トリムコンポーネントは湿らせた布と中性洗剤で洗浄します。
- ・ バックレストカバーは乾燥したブラシで洗浄します。シートクッションの洗浄には別個用意されているシートクッション取扱説明書を参照してください。
- ・ ホイールとフレームは湿らせたプラスチック製のブラシを使って洗浄します。
- ・ 強い洗剤、溶剤、または硬いブラシは使用しないでください。
- ・ 高圧洗浄機で本製品を洗浄しないでください。
- ・ 位置決めベルト（ラップベルト）のセクションのお手入れ方法も参照してください: 27 ページ参照。

### 7.15.3 消毒

- ・ 製品を完全にお手入れしてから消毒してください。
- ・ 無色の消毒液のみをご使用ください。製造元発行の取扱説明書をよくお読みください。

## 8 メンテナンスと修理

### 8.1 メンテナンス

#### ⚠ 警告

メンテナンス不足

メンテナンス期日を守らないと使用者に重篤な負傷を負わせる、また製品の破損の原因となります。

- ▶ このセクションで説明されているメンテナンスのみを行ってください。その他のすべてのメンテナンスおよびサービス作業は、有資格担当者が行うものとします。
- ▶ 製品の機能性および安全性の検証、またサービスの実施は年に1回以上行わなければなりません。
- ▶ 身長や体重または症状が変化する使用者の場合、少なくとも6ヵ月に1回は本製品の点検、調整、サービスを実施してください。

#### ⚠ 警告

製品の重要な機能の点検ミス

メンテナンスミスは使用者に重篤な負傷を負わせる、また製品の破損の原因となります。

- ▶ アームレストとバックレストのクランピングピン（クランプ）に破損が見られないかを確認し、クランプが少なくとも1ヶ月に1回はしっかりと締め直されていることを確認してください。

- ・ 必ずご使用になる前に、製品の機能を確認してください。
- ・ 故障が見られる場合、本製品の使用を中止する必要があります。これには、製品の安定性や走行特性の変化、ユーザーの座位に問題が出てきた場合、シートの安定性に関わる問題が特に該当します。修理のため有資格者に速やかに連絡してください。
- ・ これには緩み、摩耗、または破損が見られるパーツや、フレームの亀裂、フレームパーツに破損が見られる場合も該当します。
- ・ メンテナンス作業のなかには使用者自らが自宅で行うことができるものもあります。詳細は「メンテナンスの頻度」のセクションを参照してください (37 ページ参照)。
- ・ 本製品のメンテナンスを怠った場合、本製品ユーザーの負傷の原因となります。

#### 8.1.1 メンテナンスの頻度

以下に記載のある機能は、指定されている頻度で使用者または補助者が点検する必要があります：

パーツ	作業	使用前に 毎回	毎週	毎月
駆動輪	ホイールマウントがしっかりと固定されていることを確認			X
	車輪が妨げられることなく回転し、軸方向に振れがないことを確認			X
	電動式車いすの方向安定性を確認	X		
キャスト	キャストにガタつきがないことを確認			X
	フォークがアダプター内に遊びのない状態ではまっていることを確認			X
	車輪が妨げられることなく回転し、軸方向に振れがないことを確認			X
	取り付けナットがしっかりと締められていることを確認			X
シート	シートプレートがしっかりと固定されていることを確認	X		
フットレスト	しっかりと固定されていることを確認			X
	フットレストに破損がないかを確認			X
パッド/ストラップ	パッドの状態が良好であることを確認			X
	取り付けストラップに摩耗がないことを確認			X
	ベルトバックルの機能性を確認	X		
タイヤ	タイヤに十分な溝の深さ(最低でも 1 mm/0.04 inch)があるか確認			X
	破損がないかを確認			X
充電式バッテリー	バッテリー充電レベルを確認	X		
ライト (オプション)	外観から見られる破損がないかを確認		X	
	機能性を点検	X		
電子機器	コントロールデバイスが正常に機能していることを確認 (コントロールパネルにエラーメッセージが表示されている場合は有資格担当者に連絡)	X		
	充電器が正常に機能していることを確認 (LEDエラーメッセージが表示している場合は有資格担当者に連絡)		X	
	プラグ接続を点検			X
ブレーキ	ブレーキロックを解除した状態: コントロールパネルのインジケーターが点滅し、警告音が聞こえるかを確認	X		
	ブレーキがかかっている状態: 車いすを押してブレーキ機能を確認			X
アームレスト	取り付けネジがしっかりと締められていることを確認			X
	前腕レストとコントロールデバイス間のネジ接合がしっかりと締められていることを確認	X		
	前腕レストに破損がないかを確認		X	
製品	本製品上の全てのラベル表示が欠けていない、読み取ることができる状態であるか確認			X

## 8.2 修理

**⚠ 警告**

**禁止されている修理作業**  
調整や取り付けミスによる使用者の重篤な負傷、製品の破損

▶ 行うことが認められている修理作業はこのセクションで説明されているもののみです。その他の修理は必ず有資格担当者が行ってください。

### 8.2.1 故障したライトの交換

LEDライトはメンテナンスフリーです。修理が必要な場合は、車いすを組み立てた、または納品した有資格担当者がお手伝いします。

### 8.2.2 充電式バッテリーの交換

充電式バッテリーの交換は有資格担当者のみが行うものとします。

### 8.3 トラブルシューティング

#### 備考

コントロール機器のバスシステムでの通信障害が発生した場合、システムは予期せぬ動きを回避するために緊急停止を稼働します。

- ▶ 緊急停止後、電動式車いすのコントロールユニットの電源を再び入れる必要があることにご注意ください。
- ▶ コントロールユニットの電源を入れ直しても走行機能を使用することができない場合は、ブレーキを解除しプッシュモードを作動させることができます。
- ▶ 有資格担当者に至急ご連絡ください。

エラーはコントロールパネルのLED表示エリアに表示されます。次の表は、エラーメッセージ、エラーの原因、考えられる原因、そして対処法を示しています。

ここに記載されている対処法で完全に解決できない場合は、必ず有資格担当者に連絡してください。有資格担当者は、手持ち式プログラミングデバイスで正確なエラーコードを読み取り、目的に合ったシステム分析を行うことができます。

コントロールデバイスには、発生したすべてのエラーのリストを保存しています。有資格担当者は例えばオーバーホールを行う際に、この情報を読み取ることができます。有資格担当者は保存されたデータをもとに、今後のサービスやメンテナンスの頻度を決定します。

#### 8.3.1 メッセージのタイプ

##### 警告

警告は電動式車いすに1つ以上のパーツにおける状態、および故障を通知するものです。エラーが発生していないパーツの機能は制限されません。

##### エラー

エラーがある場合、電動式車いすの1つ以上の機能が損なわれます。エラーが修正されるまで、電動式車いすおよびその機能を十分に使用することができません。

#### 8.3.2 警告とエラーメッセージへの対処

- ・ 警告やエラーメッセージが表示されると、多くの場合、電動式車いすを使用することができません。この場合、エラーメッセージをメモし、コントロールデバイスをオフにしてください。
- ・ コントロールデバイスの電源を入れてもエラーメッセージが消えない場合は、コントロールデバイスを再びオフにし、速やかに有資格担当者にこのエラーメッセージについて連絡してください。

#### 8.3.3 車いすコントロールユニットのエラー一覧

##### 充電式バッテリーインジケータ

バッテリーインジケータの5つのLEDがすべて点滅している場合、速い点滅の回数はそれぞれ、異なるエラーを示しています：

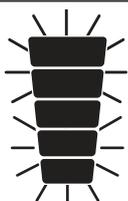
エラー表示	備考		
	例：5つのLEDすべてが7回点灯 - 長い一時停止 - すべてのLEDが7回点灯 ... = 表の第7行を参照		
LED点滅回数	エラー/警告	原因	可能な措置
 1回点滅	充電式バッテリー低電圧	充電式バッテリー過放電 バッテリーケーブルの誤動作またはバッテリーへの接続の不具合	即座に充電 バッテリーとの接続を確認（接続が良好であれば充電）
 2回点滅	左側のモーターが接続されていない	プラグ接続の不具合、 ケーブル破損など	左側のモーターへのプラグ接続とケーブルを点検

LED点滅回数	エラー/警告	原因	可能な措置
 3回点滅	左側モーターのケーブルの故障	コントローラー内の短絡など	左側のモーターへのケーブル接続を点検 接続が良好な場合：有資格担当者に連絡
 4回点滅	右側のモーターが接続されていない	プラグ接続の不具合、ケーブル破損など	右側のモーターへのプラグ接続とケーブルを点検
 5回点滅	右側モーターのケーブルの故障	コントローラー内の短絡など	右側のモーターへのケーブル接続を点検 接続が良好な場合：有資格担当者に連絡
 6回点滅	外的要因により走行機能がブロックされている	充電器が接続されている	充電器から外す
 7回点滅	ジョイスティックのエラー	ユニットがオンになった時点でジョイスティックがニュートラルポジションに入っていない	ユニットをオンにする前にジョイスティックをニュートラルポジションに入れる 再起動後にエラーが消えない場合 コントローラへの接続を確認 接続が良好な場合：有資格担当者に連絡
 8回点滅	コントローラーエラー	コントローラーの故障	全ての接続を点検 接続が良好な場合：有資格担当者に連絡
 9回点滅*	ブレーキ解除	ブレーキ解除機構を開く	モーターブレーキを点検 コントローラへの接続を点検
 10回点滅	バッテリー過電圧	ボルテージが高すぎる バッテリー端子が緩んでいる	低速度で走行を続行 ケーブル/プラグの端子を点検

\*音声警告も鳴ります。

速度表示

速度表示の5つのLEDが全て点滅した場合、これは以下を意味します：

LED点滅回数	エラー/警告	原因	プラグ接続とコントローラーのケーブルを点検 可能な措置
	接続エラー	プラグ接続の不具合、ケーブル破損など コントローラーの故障	コントローラー上のケーブル/プラグの端子を点検 有資格担当者に連絡

8.4 故障時の行動

備考

以下の注意事項タイヤパンクの場合にも適用されます。使用者/補助者はタイヤの修理を行わないでください。

故障の際には、速やかに製品の調整を行った有資格担当者または製造元のサービス部門（本書裏表紙の内側または外側の連絡先）にご連絡ください。電動式車いすの種類、故障の種類（モーター故障など）、可能であれば電動式車いすのシリアル番号など、全ての関連情報をお伝えください。

このような事態でも素早く対処できるように、この取扱説明書の裏面に記載されている有資格担当者の住所と電話番号をメモして常に持参していることをお勧めしています。この情報は、特に屋外で運転する際には常に手元に置いておく必要があります。

## 9 廃棄

### 9.1 安全に関する注意事項

#### 注記

#### 充電式バッテリーの廃棄

誤った廃棄方法による環境汚染

- ▶ 充電式バッテリーに印刷されている製造元の情報をご確認ください。
- ▶ 充電式バッテリーは家庭用一般ゴミとして廃棄しないでください。

### 9.2 廃棄に関する注意事項

廃棄の際は有資格担当者に製品を送ってください。

故障のある充電式バッテリーは、交換のために新しい充電式バッテリーが購入されたときに有資格担当者が引き取ります。

本製品の部品はすべて、各国の環境条例に従って廃棄してください。

## 10 法的事項について

法的要件についてはすべて、ご使用になる国の国内法に準拠し、それぞれに合わせて異なることもあります。

### 10.1 保証責任

オットーボック社は、本書に記載の指示ならびに使用方法に沿って製品をご使用いただいた場合に限り保証責任を負うものといたします。不適切な方法で製品を使用したり、認められていない改造や変更を行ったことに起因するなど、本書の指示に従わなかった場合の損傷については保証いたしかねます。

### 10.2 保証

保証条件に関する詳細は、本製品の担当有資格者(義肢装具製作施設) またはオットーボック社のアフターセールス・サービス(オットーボック・ジャパン) までご連絡ください(本書の巻末に表記の連絡先を参照ください)。

### 10.3 個人情報の取り扱いについて

本製品の一部のパーツには、データを一時的または恒久的に保存するデータ記憶モジュールが搭載されています。これらは技術的な性質に関するデータのみであり、使用者の安全性やエラーの特定と排除および/または製品の機能の最適化を目的としています。

モデルやバージョンに応じて、安全性に関連するパーツの故障、各コンポーネントのステータスメッセージが記録されます。サービスの目的でデータ記憶モジュールが読み込まれた場合、これらのデータは匿名化/仮名化された形で使用されます。Ottobockは、適用されるデータ保護規定に従い、データを保存、処理、使用します。

詳細に関しては、[datenschutz@ottobock.de](mailto:datenschutz@ottobock.de) までお問い合わせください。その取り扱いに関するご質問は、有資格担当者にご相談ください。

### 10.4 耐用年数

想定される耐用年数：3年

本製品の設計や製造、取扱説明書の指示内容は想定される耐用年数に基づいています。これらにはメンテナンスの指示内容も含まれ、製品の効果と安全性を保証するものです。

## 11 テクニカル データ

#### 備考

- ▶ テクニカルデータの大部分はmm単位です。特に指定のない場合、製品の設定は 0.5 cm または 1 cm 単位で行うものであり、mm単位では設定はできません。
- ▶ 実際調整を行った数値が指定されている数値と異なることがあります。認められている偏差は  $\pm 10 \text{ mm}$  /  $\pm 2^\circ$  です。

<b>適合クラス (DIN EN 12184準拠)</b>	
クラス B	
<b>駆動タイプ</b>	
後輪駆動	
<b>重量*</b>	
ベースモデル車両重量 (オプションが装備されていない状態)	57 kg (126 ポンド)
*取り付けられているオプションにより重量は異なります。	
<b>積載重量</b>	
最大積載重量 (使用者体重 + オプション + 荷物)	120 kg (265 ポンド)
<b>寸法 - シート</b>	
シート奥行有効値	380/400/420/440/460/480 mm (14.9"/15.7"/16.5"/17.3"/18.1"/18.9")
シート幅有効値	400-460 mm (15.7"-18.1")
フロント座高	500 mm (19.7")
下肢長さ (厚さ50mmのシートクッションを含む)	380-480 mm (14.9"-18.9")
バックレスト高さ	550 mm (21.6")
<b>寸法と重量</b>	
座面の角度 (シートの傾き) *	4°
シートに対する脚の角度 (膝角度)	最低: 93° ; 最大: 96°
アームレストからシートへの距離 (アームレスト高さ)	200-300 mm (7.9"-11.8")
アームレストの前位置	92-172 mm (3.6"-6.8")
前腕レストの長さ	260 mm (10.2")
前腕レストの最上点**	最低: 262 mm (10.3"); 最大: 412 mm (16.2")
全幅	585 mm (23.3")
全高	1060 mm (41.7")
全長 (フットサポートが跳ね上げられた状態) **	893 mm (35.2")
全長 (フットサポートが跳ね上げられていない状態) **	1050 mm (41.4")
輸送重量	「重量」の取り外し可能な部品の重量: アームレスト: 約 700g (1.5ポンド) 参照
最低回転半径	740 mm (29.1")
回転半径****	1080 mm (42.5")
地面とのクリアランス*****	80 mm (3.1")
キャスタータイヤサイズ	8"
駆動車輪タイヤサイズ	12.5"
*変更することはできません	
** バックレストまでの寸法	
*** 下肢長さ480 mmの場合	
**** = 180 の三点方向転換	
***** バッテリーキャリア下	
<b>輸送サイズ (保管長×保管幅×保管高さ)</b>	
保管長さ	832 mm (32.8")
保管幅	585 mm (23.3")
保管高さ	644 mm (25.4")
<b>シートおよびバックレストの調整</b>	
バックレスト角度	手動で10° 刻み: 0° /10° /20°
フットプレートの角度	手動で、無段階: -5° ~ +5°

タイヤ	
タイヤタイプ、フロント/リア	PUタイヤ
走行データ >	
速度*	精確な情報はネームプレートをご確認ください: 6 km/h (3.7 mph); 7.2 km/h (4.4 mph)
最大登坂角度**	7° (12%)
動的安定性 - 上り坂***	7° (12%)
静的安定性 - 上り坂/下り坂	9° (15.8%)
静的安定性 - 横方向	9° (15.8%)
乗り越えられる障害物の高さ最大値	50 mm (2")
制動距離 (DIN EN 12184:2014準拠)****	速度6 km/h (3.7 mph)で1,000 mm (39.4") – 平地の場合 速度7.2 km/h (4.4 mph)で1,200 mm (47.2") – 平地の場合

\*指定速度の公差は±10%です。

\*\*制御装置とモータは過負荷にならないよう保護してください。最大登坂角度は、地面の状況、外気温、バッテリー電圧、使用者の走行スタイルだけでなく、総重量（車いすの重量+使用者体重+荷物）にも左右されます。最大登坂角度が規格値よりも著しく低くなるケースも考えられます。

\*\*\*バックレストが垂直状態で承認された最大登坂角度。

\*\*\*\*制動距離は、使用者の体重、荷物、タイヤの状態、天候や路面状況などに応じて長くなる場合があります。

航続距離（平地の場合）*	
全てのバッテリータイプ	約25 km (16 マイル)

\* この航続距離は、ISO 7176-4で定められた条件下での数値です。実際の使用では、航続距離が最大50%まで短くなることも考えられます。「航続距離」のセクションを参照してください。

充電式バッテリー（各国モデルにより異なる）	
AGMバッテリー	2 x 12 V; 29.75 Ah (C5)/35 Ah (C20); メンテナンスフリー
AGMバッテリー	2 x 12 V; 30 Ah (C5)/36.5 Ah (C20); メンテナンスフリー
ジェルバッテリー	2 x 12 V; 27 Ah (C5)/35 Ah (C20); メンテナンスフリー
ジェルバッテリー	2 x 12 V; 28.75 Ah (C5)/35 Ah (C20); メンテナンスフリー

電気回路*	
IP保護等級 (DIN EN 60529準拠)	IP44
使用時の電圧	24 V DC
モーター出力	精確な情報はネームプレートをご確認ください: 160 ワット/200 ワット (国モデルにより異なります)
ライト	
LEDフロントライト	24 V、メンテナンスフリー
LEDリアライト	24 V、メンテナンスフリー
ヒューズ	50 A ヒューズケーブル (nVR2)
充電器	通常Ottobockがお届けしているものは5 Aです。 詳細は同梱の充電器の取扱説明書を参照してください。

\* 本製品はISO 7176-14の規格要件を満たしています。

充電器（Ottobockがお届けしたもの以外）	
最低要件を満たしたものをしようしてください	最低充電電流: 5 A; 最大充電電流: 10 A 入力電圧: 100-240 V IEC 60335-2-29に準拠した絶縁（クラス2）、保護等級：IP21 バッテリー充電器は、EN12184の規格要件を満たしています。 これには、ISO7176-14の要件も含まれます（逆極性保護付き充電器；充電器は、8時間以内に充電式バッテリーを少なくとも80%まで充電します。充電器には、公称容量と夜間充電の可能性に関する情報が付されています。この充電器ではバッテリーが正しく接続されていること確認することができます）。 このデバイスは、ISO7176-21およびISO7176-25の規格要件を満たしています。

※詳しくは、充電器に同梱されている取扱説明書をご覧ください。

コントロールデバイス	
モデル	nVR2
モーター毎の最大出力電流	40 A (連続電流); 50 A (ピーク電流)
標準コントロールパネルのジョイスティック操作に必要なとなる力	1.6 N
使用可能な環境条件	
使用時の温度	-15 ° C ~ +40 ° C (+5 ° F to +104 ° F)
保管および輸送時の温度	-15 ° C ~ +40 ° C (+5 ° F to +104 ° F)
相対湿度	45% ~ 85%、結露がない状態
腐食保護	
腐食保護	ディップコーティング/粉体塗装

## 12 追加情報

### 12.1 電車で輸送させることができる車椅子の閾値

備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本製品は、身体に不自由がある方の電車へのアクセスに関する最低技術要件 (EU指令 No.1300/2014) を完全にクリアしています。しかし、異なる設定を行うことができるため、全てのバージョンが全ての閾値に準拠しているとは限りません。</li> <li>▶ 以下の表を使って、ご自身で (または有資格者が) 測定を行い、特定の製品が閾値をクリアしているかを確認することができます。</li> </ul>

機能	閾値 (EU指令 No. 1300/2014規定)
長さ	1200 mm (47.2 inch); 足用に+ 50 mm (2 inch)
幅	700 mm (27.6 inch); 移動中の手のために両側に+ 50 mm (2 inch)
最小車輪	約75mm (3 inch)以上 : 規制では最小車輪は水平方向 75mm (3 inch)、垂直方向 50mm (2 inch) の隙間を乗り越えることができるものと規定されています)
高さ	最大 1375 mm (54.1 inch); 身長 1.84 m (72.5 inch) の男性使用者を含む (95th パーセンタイル)
回転半径	1500 mm (59.1 inch)
体重制限	300kg (661ポンド) ; 車いすと使用者、荷物を含む重量
乗り越えることができる障害物の高さ最大値	50 mm (2 inch)
地面とのクリアランス	60mm (2.4 inch) ; 上向き角度10° では傾斜の終わりから前進する際、フットレスト下の地面へのクリアランスは最低でも 60mm (2.4 inch) 必要になります
車いすが安定して留まることができる最大傾斜角	6° (全方向への動的安定性) 9° (全方向への静的安定性、ホイールロック時)

### 12.2 ノイズに関する情報

備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本シリーズの製品は、ISO 7176-14規格に準拠した最大騒音放射に関する要件に適合しています。</li> <li>▶ これは、以下に特定されている用途への要件を完全にクリアしています。</li> </ul>

適用範囲	最大音圧レベル <sup>1)</sup>
室内	65 db(A)
室外	75 db(A)

<sup>1)</sup> ISO 7176-14に準拠した適用範囲に応じて異なります





# Kundenservice/Customer Service

## Europe

Otto Bock HealthCare Deutschland GmbH  
Max-Näder-Str. 15 · 37115 Duderstadt · Germany  
T +49 5527 848-3433 · F +49 5527 848-1460  
healthcare@ottobock.de · www.ottobock.de

Otto Bock Healthcare Products GmbH  
Brehmstraße 16 · 1110 Wien · Austria  
F +43 1 5267985  
service-admin.vienna@ottobock.com · www.ottobock.at

Otto Bock Adria d.o.o. Sarajevo  
Ramiza Salčina 85  
71000 Sarajevo · Bosnia-Herzegovina  
T +387 33 255-405 · F +387 33 255-401  
obadria@bih.net.ba · www.ottobockadria.com.ba

Otto Bock Bulgaria Ltd.  
41 Tzar Boris III' Blvd. · 1612 Sofia · Bulgaria  
T +359 2 80 57 980 · F +359 2 80 57 982  
info@ottobock.bg · www.ottobock.bg

Otto Bock Suisse AG  
Luzerner Kantonsspital 10 · 6000 Luzern 16 · Suisse  
T +41 41 455 61 71 · F +41 41 455 61 70  
suisse@ottobock.com · www.ottobock.ch

Otto Bock ČR s.r.o.  
Protetická 460 · 33008 Zruč-Senec · Czech Republic  
T +420 377825044 · F +420 377825036  
email@ottobock.cz · www.ottobock.cz

Otto Bock Iberica S.A.  
C/Majada, 1 · 28760 Tres Cantos (Madrid) · Spain  
T +34 91 8063000 · F +34 91 8060415  
info@ottobock.es · www.ottobock.es

Otto Bock France SNC  
4 rue de la Réunion · CS 90011  
91978 Courtaboeuf Cedex · France  
T +33 1 69188830 · F +33 1 69071802  
information@ottobock.fr · www.ottobock.fr

Otto Bock Healthcare plc  
32, Parsonage Road · Englefield Green  
Egham, Surrey TW20 0LD · United Kingdom  
T +44 1784 744900 · F +44 1784 744901  
bocukuk@ottobock.com · www.ottobock.co.uk

Otto Bock Hungária Kft.  
Tatai út 74. · 1135 Budapest · Hungary  
T +36 1 4511020 · F +36 1 4511021  
info@ottobock.hu · www.ottobock.hu

Otto Bock Adria d.o.o.  
Dr. Franje Tuđmana 14 · 10431 Sveta Nedelja · Croatia  
T +385 1 3361 544 · F +385 1 3365 986  
ottobockadria@ottobock.hr · www.ottobock.hr

Otto Bock Italia Srl Us  
Via Filippo Turati 5/7 · 40054 Budrio (BO) · Italy  
T +39 051 692-4711 · F +39 051 692-4720  
info.italia@ottobock.com · www.ottobock.it

Otto Bock Benelux B.V.  
Mandenmaker 14 · 5253 RC  
Nieuwkuijk · The Netherlands  
T +31 73 5186488 · F +31 73 5114960  
info.benelux@ottobock.com · www.ottobock.nl

Industria Ortopédica Otto Bock Unip. Lda.  
Av. Miguel Bombarda, 21 - 2º Esq.  
1050-161 Lisboa · Portugal  
T +351 21 3535587 · F +351 21 3535590  
ottobockportugal@mail.telepac.pt

Otto Bock Polska Sp. z o. o.  
Ulica Korolowa 3 · 61-029 Poznań · Poland  
T +48 61 6538250 · F +48 61 6538031  
ottobock@ottobock.pl · www.ottobock.pl

Otto Bock Romania srl  
Șos de Centura Chitila - Mogoșoaia Nr. 3  
077405 Chitila, Jud. Ilfov · Romania  
T +40 21 4363110 · F +40 21 4363023  
info@ottobock.ro · www.ottobock.ro

OOO Otto Bock Service  
p/o Pultikovo, Business Park „Greenwood”,  
Building 7, 69 km MKAD  
143441 Moscow Region/Krasnogorskiy Rayon  
Russian Federation  
T +7 495 564 8360 · F +7 495 564 8363  
info@ottobock.ru · www.ottobock.ru

Otto Bock Scandinavia AB  
Postal: Box 4041 · 169 04 Solna · Sweden  
Visiting: Barks Väg 7, Solna, Sweden  
SE: T +46 11 28 06 89 · NO: T +47 23142600  
FI: T +35 8 10 400 6940 · DK: T +45 70 22 32 74  
To order: order@ottobock.se  
Inquiries: info@ottobock.se  
professionals.ottobock.se

Otto Bock Slovakia s.r.o.  
Röntgenova 26 · 851 01 Bratislava 5 · Slovak Republic  
T +421 2 32 78 20 70 · F +421 2 32 78 20 89  
info@ottobock.sk · www.ottobock.sk

Otto Bock Sava d.o.o.  
Industrijska bb · 34000 Kragujevac · Republika Srbija  
T +381 34 351 671 · F +381 34 351 671  
info@ottobock.rs · www.ottobock.rs

Otto Bock Ortopedi ve  
Rehabilitasyon Tekniği Ltd. Şti.  
Mecidiyeköy Mah. Lati Lokum Sok.  
Meriç Sitesi B Blok No: 30/B  
34387 Mecidiyeköy-İstanbul · Turkey  
T +90 212 3565040 · F +90 212 3566688  
info@ottobock.com.tr · www.ottobock.com.tr

## Africa

Otto Bock Algérie E.U.R.L.  
32, rue Ahcène Outaleb · Coopérative les Mimosas  
Mackle-Ben Aknoun · Alger · DZ Algérie  
T +213 21 913863 · F +213 21 913863  
information@ottobock.fr · www.ottobock.fr

Otto Bock Egypt S.A.E.  
28 Soliman Abaza St. Mohandessein · Giza · Egypt  
T +20 2 37606818 · F +20 2 37605734  
info@ottobock.com.eg · www.ottobock.com.eg

Otto Bock South Africa (Pty) Ltd  
Building 3 Thornhill Office Park · 94 Bekker Road  
Midrand · Johannesburg · South Africa  
T +27 11 564 9360  
info-southafrica@ottobock.co.za  
www.ottobock.co.za

## Americas

Otto Bock Argentina S.A.  
Av. Belgrano 1477 · CP 1093  
Ciudad Autónoma de Buenos Aires · Argentina  
T +54 11 5032-8201 / 5032-8202  
atencionclientes@ottobock.com.ar  
www.ottobock.com.ar

Otto Bock do Brasil Tecnica Ortopédica Ltda.  
Alameda Maria Tereza, 4036, Bairro Dois Córregos  
CEP: 13.278-181, Valinhos-São Paulo · Brasil  
T +55 19 3729 3500 · F +55 19 3269 6061  
ottobock@ottobock.com.br · www.ottobock.com.br

Otto Bock HealthCare Canada  
5470 Harvester Road  
Burlington, Ontario, L7L 5N5, Canada  
T +1 800 665 3327 · F +1 800 463 3659  
CACustomerService@ottobock.com  
www.ottobock.ca

Oficina Ottobock Habana  
Calle 3ra entre 78 y 80.  
Edificio Jerusalem · Oficina 112 · Calle 3ra.  
Playa, La Habana. Cuba  
T +53 720 430 69 · +53 720 430 81  
hector.corcho@ottobock.com.br  
www.ottobock.com.br

Otto Bock HealthCare Andina Ltda.  
Calle 138 No 53-38 · Bogotá · Colombia  
T +57 1 8619988 · F +57 1 8619977  
info@ottobock.com.co · www.ottobock.com.co

Otto Bock de Mexico S.A. de C.V.  
Prolongación Calle 18 No. 178-A  
Col. San Pedro de los Pinos  
C.P. 01180 México, D.F. · Mexico  
T +52 55 5575 0290 · F +52 55 5575 0234  
info@ottobock.com.mx · www.ottobock.com.mx

Otto Bock HealthCare LP  
11501 Alterra Parkway Suite 600  
Austin, TX 78758 · USA  
T +1 800 328 4058 · F +1 800 962 2549  
USCustomerService@ottobock.com  
www.ottobockus.com

## Asia/Pacific

Otto Bock Australia Pty. Ltd.  
Suite 1.01, Century Corporate Centre  
62 Norwest Boulevard  
Baulkham Hills NSW 2153 · Australia  
T +61 2 8818 2800 · F +61 2 8814 4500  
healthcare@ottobock.com.au · www.ottobock.com.au

Beijing Otto Bock Orthopaedic Industries Co., Ltd.  
B12E, Universal Business Park  
10 Jiuxianqiao Road, Chao Yang District  
Beijing, 100015, P.R. China  
T +8610 8598 6880 · F +8610 8598 0040  
news-service@ottobock.com.cn  
www.ottobock.com.cn

Otto Bock Asia Pacific Ltd.  
Unit 1004, 10/F, Greenfield Tower, Concordia Plaza  
1 Science Museum Road, Tsim Sha Tsui  
Kowloon, Hong Kong · China  
T +852 2598 9772 · F +852 2598 7886  
info@ottobock.com.hk · www.ottobock.com

Otto Bock HealthCare India Pvt. Ltd.  
20th Floor, Express Towers  
Nariman Point, Mumbai 400 021 · India  
T +91 22 2274 5500 / 5501 / 5502  
information@indiaottobock.com · www.ottobock.in

Otto Bock Japan K. K.  
Yokogawa Building 8F, 4-4-44 Shibaura  
Minato-ku, Tokyo, 108-0023 · Japan  
T +81 3 3798-2111 · F +81 3 3798-2112  
ottobock@ottobock.co.jp · www.ottobock.co.jp

Otto Bock Korea HealthCare Inc.  
4F Agaworld Building · 1357-74, Seocho-dong  
Seocho-ku, 137-070 Seoul · Korea  
T +82 2 577-3831 · F +82 2 577-3828  
info@ottobockkorea.com · www.ottobockkorea.com

Otto Bock South East Asia Co., Ltd.  
1741 Paholyothin Road  
Kwaeng Chatuchark · Khet Chatuchark  
Bangkok 10900 · Thailand  
T +66 2 930 3030 · F +66 2 930 3311  
obsea@ottobock.co.th · www.ottobock.co.th

## Other countries

Ottobock SE & Co. KGaA  
Max-Näder-Straße 15 · 37115 Duderstadt · Germany  
T +49 5527 848-1590 · F +49 5527 848-1676  
reha-export@ottobock.de · www.ottobock.com

Ihr Fachhändler | Your specialist dealer



Otto Bock Mobility Solutions GmbH  
Lindenstraße 13 · 07426 Königsee/Germany  
[www.ottobock.com](http://www.ottobock.com)

